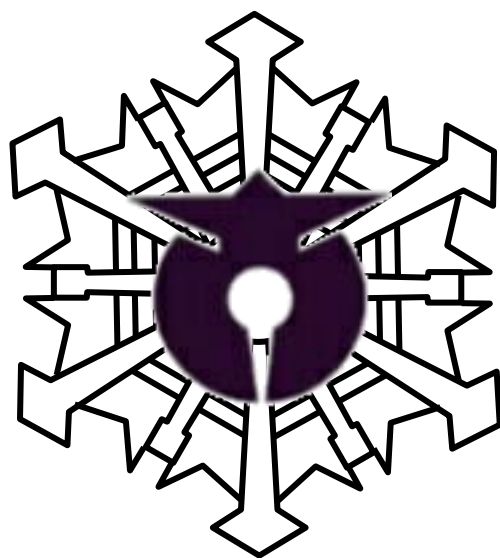


消防年報

令和5年版



高萩市消防本部

◆はしがき P 1 ～ 1 0

- 消防人訓
- 位置と面積
- 管内の概況
- 常備消防のあゆみ
- 消防の沿革
- 消防分布図

◆消防総務 P 1 1 ～ 1 9

- 高萩市消防本部組織機構図
- 消防本部・署の分掌事務
- 1 面積・人口・世帯数
- 2 市予算と消防予算
- 3 人口及び1世帯当たりの消防費
- 4 消防職員及び消防団員1人当たりの人口・世帯
- 5 消防庁舎の現況
- 6 消防現勢
- 7 消防職員関係
- 8 消防相互応援協定

◆予防 P 2 0 ～ 2 8

- 1 火災発生の状況
- 2 火災の推移（過去10年間）
- 3 防火対象物現況（150㎡以上）
- 4 建築同意月別用途別状況
- 5 月別建築確認受理件数

◆危険物 P 2 9

- 1 危険物関係申請及び届出
- 2 危険物規制対象調（検査済証交付施設）
- 3 類別・危険物製造所等一覧表

◆警防 P 3 0 ～ 3 1

- 1 消防活動状況
- 2 警防関係申請及び届出
- 3 消防水利の現況

◆救急救助 P 3 2 ～ 3 4

- 1 救急取扱い件数
- 2 救急の推移（過去10年間）
- 3 年齢区分別搬送人員状況
- 4 傷病程度別搬送人員状況
- 5 男女別搬送人員状況
- 6 発生場所別搬送人員状況
- 7 管轄内・管轄外搬送件数状況
- 8 応急手当講習会実施状況
- 9 救助出場件数状況

◆機械 P 3 5 ～ 3 7

- 1 消防ポンプ機械の現況
- 2 特殊器具の状況（警防・救急・救助器具）

◆通信 P 3 8 ～ 3 9

- 1 無線通信施設
- 2 緊急通報システム系統図

◆気象 P 4 0 ～ 4 1

- 1 月別気温・湿度・風向・風速調
- 2 月別雨量（5年間）調
- 3 月別警報調
- 4 月別天候調

◆消防団 P 4 2 ～ 4 5

- 1 消防団の組織機構図
- 2 消防団現勢
- 3 消防団の定員数と実員数
- 4 消防団員の勤続年数
- 5 消防団員の年齢
- 6 消防団出場回数調
- 7 消防団ポンプ機械の現況

◆外郭団体 P 4 6 ～ 4 9

- 1 高萩市山林防火普及協会
- 2 高萩市防火管理者協議会
- 3 高萩市危険物安全協会
- 4 高萩市女性防火クラブ連絡協議会

は し が き

本書は、高萩市の現勢及び令和5年中の消防業務に関する諸般の事項を集録し広く
消防事情を紹介するために編集したものです。

この統計は、令和6年3月31日現在をもって作成したのですが、これによら
ないものについてはそれぞれ記載した年月日現在より作成しました。

令和6年4月

高萩市消防本部



消 防 人 訓

わたくしたち消防人は、消防が水火災等の災害を防ぎ、社会公共の安寧と福祉に寄与することの甚大なことを自覚し、つぎのことを信条として一意、市民に奉仕します。

- 一 消防人は勇気を尊ぶべし
- 一 消防人は迅速を旨とすべし
- 一 消防人は責任を重んずべし
- 一 消防人は規律を正しくすべし
- 一 消防人は協同一致すべし

昭和41年6月5日制定



位置と面積

位置

高萩市消防本部

高萩市東本町3丁目11番

北緯 36° 42' 59" 東経 140° 43' 7"

面積

193.58km²



管内の概況

1 位置と地勢・気候

本市は、茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系南端の多賀山地が連なっています。

北部は茨城県北茨城市、南部は日立市、西部は常陸太田市に接しており、首都東京から 150 km圏内に位置し、県庁所在地（水戸市）の北約 45 kmの地点にあります。

本市の面積は 193.58 k m²で、茨城県平均（138.56 k m²）より大きく、県内 44 市町村のうち 13 番目の面積規模となっています。

気候は、東日本型気候に属し、太平洋に面しているため、県内の内陸部に比べると冬は温暖で夏は涼しくなっている。

なお、山間部は海拔 300~500mという地理的条件により、海岸部より年平均気温が約 2~4 度低い内陸性気候を示している。

2 沿革

明治 22 年の町村施行令により、松原町、松岡村、高岡村、楡形村、黒前村が設置され、昭和 29 年にそれらの町村が合併して高萩市が誕生しました。その後 2 度の編入を受けて昭和 63 年から現在の高萩市となっています。

表 本市の沿革

明治 22. 4. 1	<ul style="list-style-type: none">・秋山村、安良川村、島名村、高萩村、伊師村の内字滝坪をもって、多賀郡松原町を設置・赤浜村、高戸村、下手綱村、上手綱村をもって、多賀郡松岡村を設置・中戸川村、大能村、上君田村、下君田村、横川村、若栗村をもって、多賀群高岡村を設置・友部村、伊師村（字滝坪を除く）、伊師本郷村をもって、多賀郡楡形村を設置・黒坂村、高原村、山部村、福平村をもって、多賀郡黒前村を設置
昭和 3. 4.17	・多賀郡松岡村を松岡町とする
12.10. 1	・多賀郡松原村を高萩町とする
29.11.23	・多賀郡高萩町、松岡町、高岡町、黒前村及び楡形村の一部を合併し、高萩市を設置（市制施行）
32. 7. 1	・北茨城市の一部（望海地区）を高萩市へ編入
63. 6. 1	・北茨城市の一部（中郷町日棚地区の一部）を高萩市へ編入

常 備 消 防 の あ ゆ み

昭和40年	4. 1 6. 8	高萩市消防本部（署）発足 消防吏員総員21名 初代消防長 安村 篤氏（市長事務取扱） 署長 岩本 啓治氏（助役）就任 水槽付ポンプ自動車1台にて消防業務開始
昭和41年	4. 1 6. 5	消防吏員2名採用 総員23名 消防署長に中山 実氏 就任
昭和42年	3.31 4. 1	消防吏員1名退職 消防吏員総員22名
昭和43年	4. 1	消防吏員1名採用 総員23名
昭和44年	4. 1 7. 1 12. 1	消防吏員3名採用 総員26名 救急業務を開始する 第2代消防長 中山 実氏（署長兼務）就任 救急自動車配置
昭和45年	4. 1 6. 5 9.20	消防吏員2名採用 総員28名 その他の職員市役所より1名出向 指令車配置 消防ポンプ車増設 庁舎（389.89㎡）が狭隘になったため鉄筋コンクリート2階建133㎡増築
昭和46年	4. 1	消防吏員2名採用 総員30名 その他の職員1名
昭和47年	4. 1	消防吏員3名採用 総員33名 その他の職員1名
昭和48年	4. 1 6. 1	消防吏員1名採用 総員34名 その他の職員1名 第2代消防長 中山 実氏 退任 第3代消防長に助役 下山田 一郎氏（事務取扱）就任 消防ポンプ自動車購入
昭和49年	7. 1	第3代消防長 下山田 一郎氏（事務取扱）退任 第4代消防長に本郷 芳氏（署長、課長兼務）就任 救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置
昭和50年	4. 1	消防吏員5名採用 総員38名 その他の職員1名
昭和51年	9.30	第4代消防長 本郷 芳氏 退任 第5代消防長 佐藤 健雄氏（署長、課長兼務）就任
昭和52年	2.12 12.15	救急自動車（関彰商事株式会社より寄贈）配置 水槽付消防ポンプ自動車1台配置
昭和53年	4. 1	消防吏員2名採用 総員40名 その他の職員1名
昭和54年	4. 1	高萩市・十王町事務組合消防本部発足 初代消防長 佐藤 健雄氏 就任 消防吏員21名採用 総員61名 十王分署開設（本部7名 高萩消防署33名 十王分署21名）
昭和55年	3.26 4. 1	十王分署 救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置 消防吏員1名採用 総員62名（本部8名 高萩消防署33名 十王分署21名）
昭和56年	4.30 7. 1	初代消防長 佐藤 健雄氏 退任 第6代消防長に管理者 鈴木 藤太氏（消防事務取扱）就任 第7代消防長 石田 富吉氏 就任
昭和57年	12. 9	高萩消防署 消防ポンプ自動車（CD-II型）配置 消防ポンプ自動車廃車（45年購入）

昭和59年	4. 1 8.20	消防吏員2名採用 総員64名 新庁舎完成 鉄筋コンクリート2階建 (1階668.20㎡、2階593.03㎡、延面積1,261.23㎡) 訓練塔2棟併設144㎡(高さ17mと7m)、外高圧充填所RC造10.25㎡)
昭和61年	3.31 4. 1 7. 1 9.30	第7代消防長 石田 富吉氏 退任 第8代消防長管理者 鈴木 藤太氏(消防長事務取扱) 就任 第9代消防長 大都 直教氏 就任 消防吏員1名 退職 総員62名
昭和62年	1.31 4. 1	消防吏員1名 退職 総員61名 消防吏員3名 採用 総員64名
昭和63年	12.27	救急自動車(山之内製薬より寄贈) 配置
平成2年	11. 4	消防吏員1名退職 総員63名
平成3年	3. 2 3.27 4. 1	十王分署 消防ポンプ自動車(BD-I) 配置 高萩消防署 水槽付ポンプ自動車(I-B)配置 消防吏員4名採用 総員67名 その他の職員1名採用
平成4年	4. 1	十王分署が十王消防署に昇格 消防吏員5名採用 総員72名 その他の職員1名
平成5年	3.25 3.31 4. 1 11.12	ひとり暮らし緊急通報システム開所 第9代消防長 大都 直教氏 退任 第10代消防長に木村 進氏 就任 消防吏員5名採用 総員76名 その他の職員1名 消防吏員1名退職 総員75名 その他の職員1名
平成6年	4. 1	消防吏員5名採用 総員80名 その他の職員1名 茨城県立消防学校に講師として1名派遣
平成7年	2.10 3.31 4. 1 12.31	高萩消防署 屈折はしご付消防自動車配置 消防吏員2名退職 総員78名 その他の職員1名 消防吏員5名採用 総員83名 その他の職員1名 消防吏員1名退職 総員82名 その他の職員1名
平成8年	4. 1	消防吏員6名採用 総員88名 その他の職員1名
平成9年	3.14 4. 1	高萩消防署 水槽付ポンプ自動車(II型) 配置 消防吏員2名採用 総員90名 その他の職員1名 県防災航空隊に1名派遣
平成10年	3.04 3.31 4. 1	高萩消防署高規格救急車配置 第10代消防長 木村 進氏 退任 第11代消防長に金沢 英雄氏 就任 消防吏員1名採用 総員90名 その他の職員1名
平成11年	1.20 4. 1	高萩消防署事務室を講堂に移動 旧署事務室を指令室 緊急通信指令室開所
平成12年	3.28 3.31 4. 1	高萩消防署 水槽付ポンプ自動車(I-B) 配置 第11代消防長 金沢 英雄氏 退任 消防吏員2名退職 総員87名 その他の職員1名 第12代消防長に坪 和久氏 就任 消防吏員2名採用 総員89名 その他の職員1名 県生活環境部消防防災課に1名派遣
平成13年	1.25 4. 1	十王消防署 高規格救急車配置 消防吏員2名採用 総員91名 その他の職員1名

平成 14 年	3.31 4. 1	第 12 代消防長 坪 和久氏 退任 第 13 代消防長に佐藤 勝彦氏 就任 消防吏員 2 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名
平成 15 年	4. 1 10. 5	高萩消防署 救助工作車配置 消防吏員 1 名採用 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名
平成 16 年	3.31 4. 1 7. 1 11. 1	第 13 代消防長 佐藤 勝彦氏 退任 消防吏員 1 名 退職 第 14 代消防長に皆川 泰男氏 就任 消防吏員 1 名採用 総員 91 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名 市町村指令第 21 号により高萩市・日立市事務組合消防本部となる
平成 17 年	4. 1	消防吏員 5 名採用 総員 97 名 その他の職員 1 名 県防災航空隊に 1 名派遣
平成 18 年	3.16 3.31 4. 1	十王消防署 消防ポンプ自動車 (CD- I) 配置 消防吏員 2 名退職 総員 95 名 その他の職員 1 名 消防吏員 5 名採用 総員 100 名 その他の職員 1 名
平成 19 年	3.31 4. 1 7.31 10.30	第 14 代消防長 皆川 泰男氏 退任 消防吏員 11 名退職 第 15 代消防長 河野 泰喜氏 就任 茨城県立消防学校に講師として 1 名派遣 消防吏員 5 名採用 総員 94 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名
平成 20 年	3.31 4. 1	第 15 代消防長 河野 泰喜氏 退任 消防吏員 7 名退職 高萩市・日立市事務組合消防本部解散に伴い全職員が高萩市・日立市事務組合を退職 高萩市消防本部発足 十王消防署 日立市消防本部に移管 高萩市・日立市事務組合消防本部職員中、60 名 (消防吏員 59 名その他の職員 1 名) が高萩市消防本部職員として採用される 26 名は日立市消防本部へ採用 第 16 代消防長 小野 眞氏 就任 消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向)
平成 21 年	4. 1 9.26	消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向) 県防災航空隊に 1 名派遣 高萩消防署 高規格救急自動車 ((社)日本損害保険協会より寄贈) 配置
平成 22 年	3.31 4. 1	消防吏員 1 名退職 消防吏員 総員 58 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向)
平成 23 年	3.11 3.31 4. 1	東日本大震災 第 16 代消防長 小野 眞氏 退任 第 16 代消防長 小野 眞氏 再任用 消防吏員 総員 60 名 その他の職員 1 名
平成 24 年	4. 1	第 16 代消防長 小野 眞氏 再任用 消防吏員 総員 60 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向)
平成 25 年	3.31	第 16 代消防長 小野 眞氏 退任 消防吏員 1 名退職

平成 25 年	4. 1	第 17 代消防長 斎藤 祐二氏 就任 消防吏員 3 名 採用 総員 61 名
平成 26 年	3.31 4. 1	消防吏員 3 名 退職 消防吏員 2 名 採用 総員 60 名
平成 27 年	3.31 4. 1	消防吏員 3 名 退職 消防吏員 2 名 採用 総員 59 名
平成 28 年	3.31 4. 1 6. 1	消防吏員 1 名 退職 県防災航空隊に 1 名派遣 いばらき消防指令センターに 1 名派遣 消防吏員 3 名 採用 総員 61 名 指令業務を茨城消防指令センターへ移管
平成 29 年	3. 8 3.31 4. 1	高萩消防署 高規格救急自動車を更新 第 17 代消防長 斎藤 祐二氏 退任 消防吏員 2 名 退職 第 18 代消防長 菊地 秀一氏 就任 消防吏員 2 名 採用 総員 61 名
平成 30 年	3. 7 3.31 4. 1	高萩消防署 屈折はしご付消防ポンプ自動車を更新 第 18 代消防長 菊地 秀一氏 退任 消防吏員 4 名 退職 第 19 代消防長 青山 眞司氏 就任 消防吏員 3 名 採用 総員 61 名
平成 31 年 (令和元年)	3.31 10.16 10.25 10.31	消防吏員 1 名退職 消防吏員 総員 60 名 第 19 代消防長 青山 眞司氏 退任 第 20 代消防長 黒沢 克也氏 就任 消防吏員 総員 59 名 予防課 消防査察自動車を更新
令和 2 年	3.31 4. 1 12.17	第 20 代消防長 黒沢 克也氏 退任 第 21 代消防長 松本 和良氏 就任 消防吏員 3 名 採用 総員 61 名 高萩消防署 消防ポンプ自動車を更新
令和 3 年	3.31 4. 1	第 21 代消防長 松本 和良氏 退任 第 22 代消防長 小林 敏司氏 就任 消防吏員 2 名 採用 総員 62 名
令和 4 年	1.16 3.31 4. 1	高萩消防署 高規格救急自動車を更新 第 22 代消防長 小林 敏司 退任 第 23 代消防長 小松 力雄 就任 いばらき消防司令センターに 1 名派遣 消防吏員 総員 61 名 小林 敏司氏再任用 消防吏員 61 名 再任用 1 名 総員 62 名
令和 5 年	1.19 4. 1	高萩消防署 消防ポンプ自動車を更新 消防吏員 61 名 再任用 1 名 総員 62 名

消 防 の 沿 革

高萩市消防団

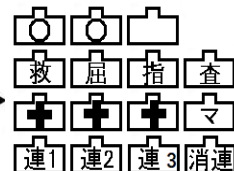
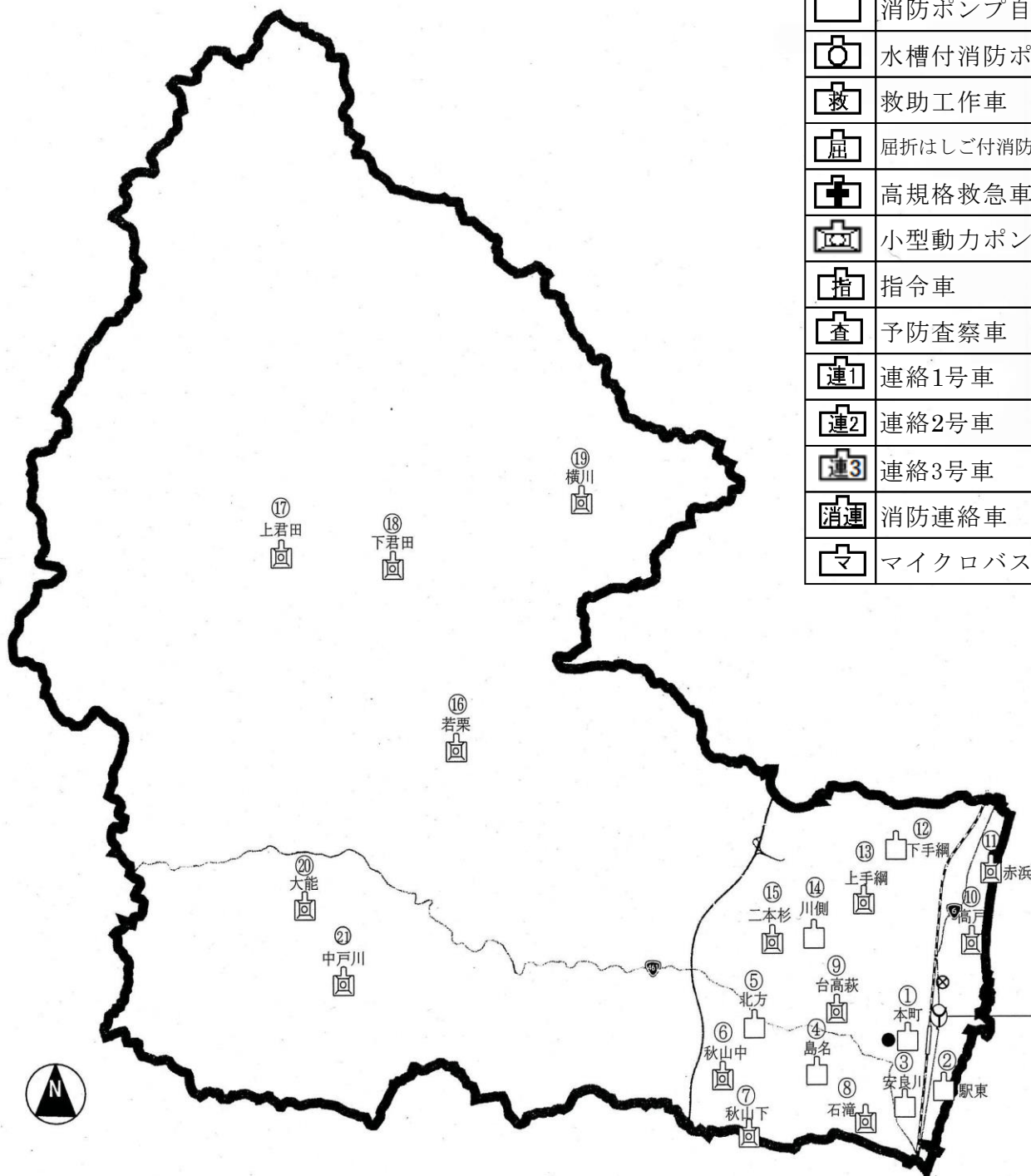
- 1 消防制度は明治 27 年（1894 年）2 月勅令第 15 号で消防規則が公布されたことにより、明治 31 年（1898 年）1 月本県令第 1 号をもって消防組規則施行細則が發布されたが、当地方では松原町消防組が明治 27 年（1894 年）8 月に設置され、続いて明治 31 年 11 月松岡村消防組、高岡村消防組がそれぞれ設置された。
- 2 大正 11 年当時の消防組としては、松原組一円を区域とする松原消防組（組頭 1、小頭 28、部長 6、消防手 289）、松岡村一円を区域とする松岡村消防組（組頭 1、小頭 17、消防手 171）の外は私設消防組として関口、千代田、秋山の炭鋸消防組があった。その後、昭和 8 年現在の松原町消防組は部数 7（高萩、安良川、島名、秋山、北方、石滝）ガソリンポンプ 2 台、腕用ポンプ 7 台で、当時の組頭は石平之亟氏であり、その頃の火災出場件数は、昭和 7 年 8 回、昭和 8 年 4 回であった。
- 3 その後、消防組の組織の活動はたいした変化はみられなかったが、昭和 12 年（1937 年）7 月日華事変が勃発し戦争が熾烈化するにつれ、消防組の重要性が次第に認識され、昭和 14 年消防組は警防団と改編され、組織の拡充が図られ、従来の防火、水防対策にしばられていた消防活動は、勢い戦争目的遂行のため国策に協力すべく大幅に拡大された。即ち防火、防空、水難救助対策は勿論、自警、避難の誘導、防空壕掘り、出征兵士留守家族の手伝い、勤労奉仕等あらゆる活動を展開するに至った。
- 4 戦後は、昭和 22 年（1947 年）の消防制度の改革により、昭和 22 年 7 月高萩町消防団及び高岡村消防団、昭和 23 年 6 月松岡町消防団が各発足し、各新しい市町村の消防制度に切り換えられたが、施設等は殆ど戦前の状態であった。
- 5 昭和 29 年（1954 年）11 月 23 日、町村合併により高萩市の誕生をみるに至り、消防組織も高萩市消防団として統合され、当初は 3 支団、21 ヶ分団、団員 731 名で初代団長は矢代良三氏が就任した。次に、昭和 31 年 4 月 1 日、消防団機構の改革を実施し、支団制を廃して 21 ヶ分団、団員 445 名に削減し、第 2 代団長に沼田吉人氏が就任した。次に昭和 32 年 4 月 1 日、分団統合を行い、8 ヶ分団 21 部制に改編、さらに昭和 36 年 12 月 1 日に分団再編成を行い、3 ヶ分団を増設 11 ヶ分団 21 部となり、昭和 39 年 4 月第 3 代団長に鳥居塚鉄治氏が就任した。
- 6 昭和 41 年第 4 分団、昭和 43 年第 1 分団及び第 5 分団の各消防ポンプ自動車を更新し、消防団の組織も指揮統制、昭和 44 年 4 月 1 日から 21 ヶ分団制に改編し、第 4 代の団長に穂積政次氏が就任した。
- 7 昭和 46 年第 14 分団に消防ポンプ自動車を配置した外、日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第 12 分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図る第一着手として、国県費補助を得て小型動力ポンプ積載車 3 台、昭和 47 年に 1 台を購入し、第 17、第 18、第 19、第 20 分団に各配置し、昭和 48 年度には同じく 2 台を購入し、この計画の完成を見る等、消防力は画期的な前進を見るに至った。
- 8 消防水利のうち、消火栓の整備は昭和 43 年から昭和 48 年度までに 222 基が完了し、昭和 48 年 4 月 1 日から水道事業開始に伴い使用可能となり、従来の防火貯水槽と合わせて消防水利設置基準の 82%が達成できた。
- 9 消防団の指揮統率上副団長 2 名を 3 名に改め、昭和 49 年 4 月 1 日から実施した。
- 10 昭和 50 年 12 月 10 日第 9 分団に昭和 51 年 12 月 25 日第 10、11 分団に小型動力ポンプ積載車を配置、全分団の機動化が完了した。
- 11 昭和 53 年 2 月 18 日第 8 分団積載車老朽のため更新した。
- 12 昭和 54 年 3 月 20 日第 7 分団、第 15 分団の積載車、昭和 54 年 11 月 20 日第 3 分団の消防ポンプ自動車を各々老朽のため更新した。
- 13 昭和 55 年 12 月 13 日第 2 分団消防ポンプ自動車第 6 分団小型動力ポンプ積載車を各々老朽のため更新した。
- 14 昭和 57 年 3 月第 9 分団消防詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り 2 階建延 38.88 m² の車庫兼詰所を新築した。
- 15 昭和 57 年 8 月第 9 分団に配置してある小型動力ポンプ老朽化に伴い更新し、体制の強化を図った。

- 16 昭和57年12月第1分団詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り2階建延59.76㎡の詰所兼車庫を新築した。
- 17 昭和58年3月消防庁長官より優良消防団として表彰旗を受領した。
- 18 昭和58年4月1日副団長豊田恒氏退団に伴い副団長に鈴木彰氏が就任した。
- 19 昭和59年4月1日副団長下山田義郎氏退団に伴い副団長篠原新一郎氏が就任した。
- 20 昭和60年3月29日第19・20・21分団の小型動力ポンプ老朽のため更新した。
- 21 昭和60年4月1日副団長黒尾良氏退団に伴い副団長に大部正氏が就任した。
- 22 昭和61年2月第16分団消防詰所道路拡張工事に伴い移転改築した。ブロック造り平屋建22.93㎡。
- 23 昭和61年3月第5分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 24 昭和61年8月日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第4分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図った。
- 25 昭和61年11月第1分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 26 昭和62年4月1日副団長大部正氏退団により小林高弘氏が就任した。
- 27 昭和62年9月1日副団長小林高弘氏退団により沼田浩氏が就任した。
- 28 平成元年3月第19分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し消防体制の強化を図った。
- 29 平成元年4月1日副団長鈴木彰氏退団に伴い鈴木健二氏が就任した。
- 30 平成元年10月第12分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 31 平成元年12月第20分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 32 平成元年、平成2年度にわたり第12分団詰所改築並びに外構工事を行い施設の整備を図った。
- 33 平成2年12月第14分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 34 平成3年3月第17分団積載車老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 35 平成3年10月第21分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 36 平成3年10月第16分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 37 平成3年10月第16分団(防災町づくり)第21分団(水力発電施設周辺地域整備事業)の積載車を更新し設備の強化を図った。
- 38 平成4年3月第18分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延40.32㎡の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 39 平成5年3月第18分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 40 平成5年3月第17分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋瓦葺建延50.32㎡の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 41 平成5年11月5日平成5年度茨城県高萩市総合防災訓練を高萩市立君田小学校、君田中学校を会場に104機関・団体の参加をえて実施した。
- 42 平成6年3月第9分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 43 平成7年3月第11分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積50.32㎡の赤浜地区コミュニティー消防センターを改築、同時に第11分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 44 平成7年12月31日団長穂積政次氏退団により第5代団長に篠原新一郎氏が就任した。
- 45 平成8年3月第10分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延50.07㎡の高戸地区コミュニティー防災センターを改築、同時に第10分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 46 平成9年3月第8分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積50.07㎡の石滝地区コミュニティー防災センターを新築、同時に第8分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 47 平成9年3月第5分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造2階建延面積70.73㎡を水力発電施設周辺地域整備事業により改築し、分団施設の整備を図った。
- 48 消防団の指揮統率上副団長3名を4名に改め、平成9年4月1日から実施、同年4月2日付で、副団長に岩間輝亘氏が就任した。
- 49 平成10年9月財団法人日本消防協会より小型動力消防ポンプ(B-II級)積載車の寄贈を受け、第15分団に配置した。
- 50 平成11年3月第7分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。

- 51 平成 11 年 4 月副団長鈴木健二氏退団により、鈴木廣美氏が就任した。
- 52 平成 12 年 3 月第 3 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
平成 12 年 3 月第 6 分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 53 平成 12 年 4 月副団長沼田浩氏退団により、大高忠氏が就任した。
- 54 平成 12 年 9 月第 2 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 55 平成 13 年 4 月第 7 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積 51.95 m²の秋山下コミュニティー消防センターを新築した。
- 56 平成 14 年 3 月第 19 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積 50.32 m²の横川コミュニティー消防センターを新築した。
- 57 平成 15 年 3 月第 4 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積 76.18 m²の消防団詰所新築
- 58 平成 16 年 6 月第 14 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積 65.41 m²の消防団詰所新築
- 59 平成 17 年 4 月 1 日団長篠原新一郎氏退団により第 6 代団長に細金秀隆氏が就任し、副団長に作山吉平氏が就任した。
- 60 平成 19 年 1 月第 4 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 61 平成 20 年 3 月第 5 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 62 平成 20 年 5 月第 1 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 63 平成 21 年 4 月 1 日副団長岩間輝亘氏退団に伴い副団長中村泰治氏が就任した。
- 64 平成 21 年 9 月第 12 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 65 平成 22 年 2 月財団法人日本消防協会より、優良消防団として表彰旗を受領した。
- 66 平成 22 年 2 月総務省消防庁より、小型動力消防ポンプ (B-II 級) 付積載車の無償貸し付けを受け第 19 分団に配備した。
- 67 平成 22 年 4 月高萩市初の消防団本部付として、女性消防団員 14 名が入団した。
- 68 平成 22 年 9 月第 14 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両 (CD-I 型) を配備し、設備の強化を図った。
- 69 平成 22 年 12 月財団法人日本消防協会より助成を受け、消防団本部に対し軽可搬ポンプ (D-1 級) を配備した。
- 70 平成 23 年 2 月財団法人日本消防協会より指令車の寄贈を受け、消防団本部・消防本部共同運用とし高萩消防署に配備した。
- 71 平成 23 年 12 月財団法人自治総合センターコミュニティー助成事業より助成を受け、消防団本部に対し軽可搬ポンプ (D-1 級) を配備した。
- 72 平成 25 年 3 月第 3 分団詰所兼車庫、東日本大震災に伴い鉄筋コンクリート造 2 階建延べ面積 120.22 m²の消防団詰所新築
- 73 平成 25 年 4 月 1 日団長細金秀隆氏、副団長鈴木廣美氏、大高忠氏退団により、第 7 代団長に作山吉平氏、副団長に熊代正明氏、鈴木幸一氏、大森勉氏が就任した。
- 74 平成 28 年 4 月 1 日副団長中村泰治氏退団により、副団長に棚谷善廣氏が就任した。
- 75 平成 29 年 4 月 1 日団長作山吉平氏退団により、第 8 代団長に熊代正明氏、副団長に坂本美智春氏が就任した。
- 76 令和元年 12 月第 20 分団小型動力ポンプ付積載車老朽化に伴い車両更新 (B-III 級) を配備し、設備の強化を図った。
- 77 令和 4 年 12 月第 17 分団小型動力ポンプ付積載車老朽化に伴い車両更新を配備し、設備の強化を図った。
- 78 令和 5 年 12 月第 21 分団小型動力ポンプ付積載車老朽化に伴い車両更新 (B-III 級) を配備し、設備の強化を図った。

消防分布図

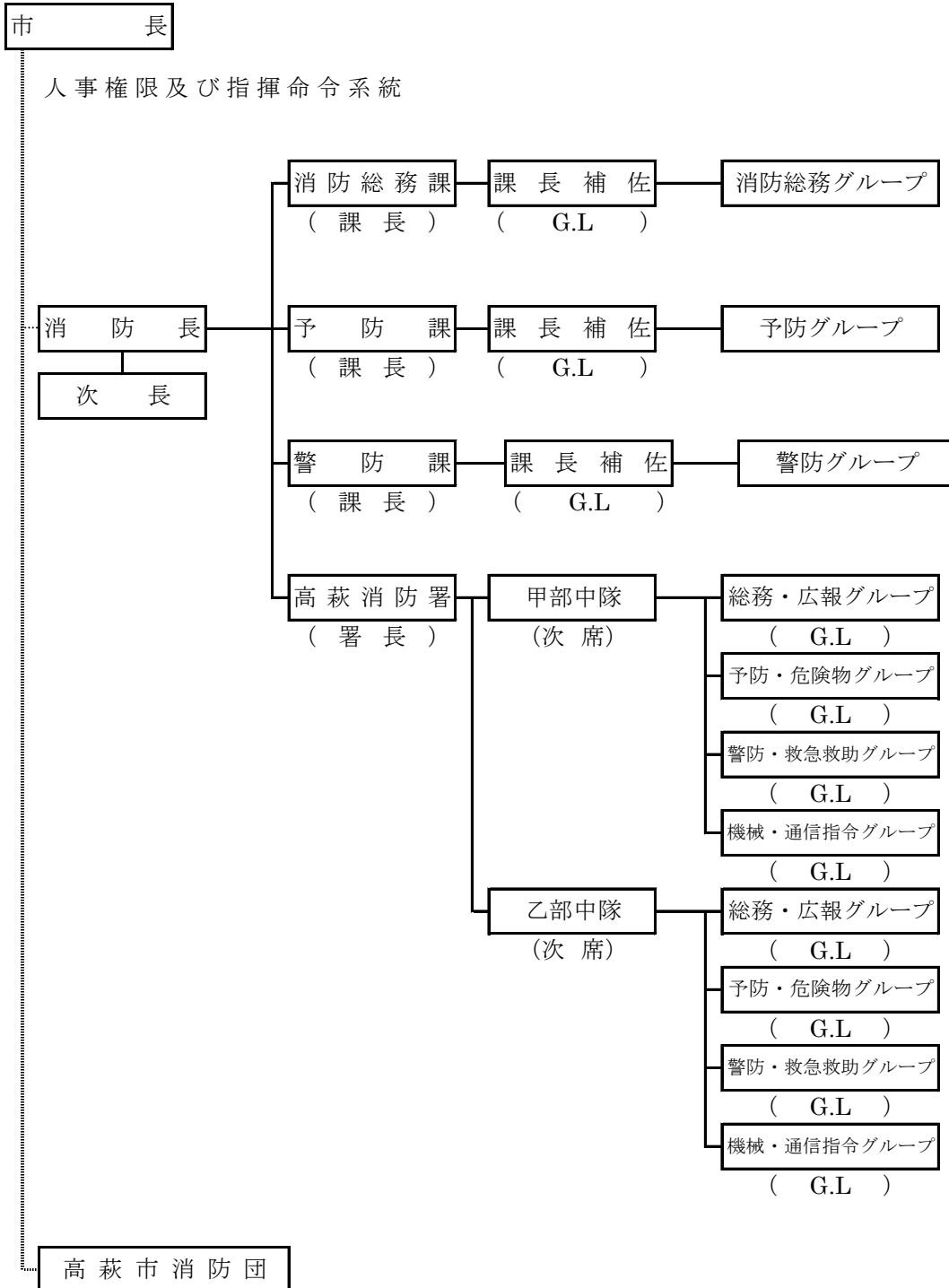
記号	種類
	消防本部・署
	消防ポンプ自動車
	水槽付消防ポンプ自動車
	救助工作車
	屈折はしご付消防ポンプ自動車
	高規格救急車
	小型動力ポンプ積載車
	指令車
	予防査察車
	連絡1号車
	連絡2号車
	連絡3号車
	消防連絡車
	マイクロバス



消 防 総 務

高萩市消防本部組織機構図

(令和5年4月1日現在)



災害時における指揮命令系統 (消防組織法第18条第3項)

消防本部・署の分掌事務

消 防 本 部	消 防 総 務 課	消 防 総 務 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公印の保管に関する事 (2) 公文書の收受、発送、整理及び保存に関する事 (3) 条例、規則、規程、告示等に関する事 (4) 議案及び議会に関する事 (5) 消防団に関する事 (6) 予算編成及び予算執行に関する事 (7) 物品の調達及び検収に関する事 (8) 所管に属する建物及び附属施設の保守管理に関する事 (9) 組織に関する事 (10) 職員の任免、賞罰、服務その他身分に関する事 (11) 職員の研修に関する事 (12) 職員の福利厚生に関する事 (13) 職員の公務災害に関する事 (14) 職員の安全衛生委員会及び職員委員会に関する事 (15) 職員の表彰に関する事 (16) 職員の給与及び旅費に関する事 (17) 被服等の貸与に関する事 (18) その他職員に関する事 (19) その他他の課に属さない事務 	消 防 署	総 務 ・ 広 報 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 文書の收受、発送、整理及び保存に関する事 (2) 署員の教養訓練及び服務規律に関する事 (3) 署員の福利厚生及び衛生管理に関する事 (4) 庁舎及び附属施設の保守管理並びに備品の管理に関する事 (5) その他他の担当に属さない事 (6) 防火思想の普及広報に関する事 (7) 防火相談に関する事 (8) 消防統計に関する事 (9) 消防年報の発行に関する事 (10) 火災予防運動に関する事 (11) その他総務に関する事 (12) その他広報に関する事
		予 防 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 防火思想の普及広報に関する事 (2) 火災予防査察に関する事 (3) 火災の原因調査及び損害調査に関する事 (4) 防火管理者の資格を与える講習及び指導に関する事 (5) 火災のり災証明に関する事 (6) 火災予防条例に関する事 (7) 建築確認の同意に関する事 (8) 防火対象物の使用届及び消防用設備検査の指導に関する事 (9) その他予防全般に関する事 (10) 危険物施設等の許認可及び検査指導に関する事 (11) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律等に係る意見書に関する事 (12) 指定可燃物に関する事 (13) その他危険物全般に関する事 		予 防 ・ 危 険 物 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 火災予防及び査察に関する事 (2) 火災の原因調査に関する事 (3) 消防用設備等の検査及び維持管理の指導に関する事 (4) 火災予防組合の指導に関する事 (5) 火災予防条例に関する事 (6) その他予防に関する事 (7) 少量危険物の貯蔵取扱に関する事 (8) 指定可燃物に関する事 (9) その他、危険物に関する事
	警 防 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災その他の災害の警戒及び防御に関する事 (2) 警戒計画に関する事 (3) 消防力の整備指針に関する事 (4) 緊急消防援助隊に関する事 (5) 救助技術の研究及び訓練の指導に関する事 (6) 諸訓練の安全管理に関する事 (7) 自衛消防隊の育成指導に関する事 (8) 警戒に関する統計及び消防年報作成に関する事 (9) その他警戒全般に関する事 (10) 消防施設整備に関する事 (11) 消防水利施設の調査、同意及び管理に関する事 (12) 消防機械器具の維持管理に関する事 (13) 消防機械の燃料及び機械部品の出納管理に関する事 (14) 機械器具の操作及び指導に関する事 (15) 車両の安全運行管理に関する事 (16) 各種災害の通報の受信及び出動指令に関する事 (17) 通信指令施設の運用及び維持管理に関する事 (18) 無線通信事務に関する事 (19) 災害の情報収集に関する事 (20) 火災警報及び気象情報に関する事 (21) 救急救助業務の管理及び計画に関する事 (22) 救急救助備品及び消耗品の出納管理に関する事 (23) 救急救助技術の指導、訓練及び教育に関する事 (24) 応急手当普及啓発に関する事 (25) 救急救助の搬送証明に関する事 (26) 救急救助医療機関との連絡調整に関する事 (27) 救急救助統計及び報告に関する事 (28) メディカルコントロール体制に関する事 (29) その他救急救助全般に関する事 	警 防 ・ 救 急 救 助 グ ル ー プ		<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防水利の維持管理に関する事 (2) 消防資機材の整備保管に関する事 (3) 諸警備及び警戒に関する事 (4) 自衛消防隊の指導育成に関する事 (5) その他警戒に関する事 (6) 救急業務に関する事 (7) 救助業務に関する事 (8) 救急隊の訓練に関する事 (9) 救助隊の訓練に関する事 (10) 応急手当普及啓発に関する事 (11) その他、救急及び救助に関する事 	
					機 械 ・ 通 信 指 令 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防機械の燃料の出納管理に関する事 (2) 機械器具の部品の出納管理に関する事 (3) 機械器具の維持管理に関する事 (4) 機械器具の操作技術の指導に関する事 (5) 救急救助資機材の維持管理に関する事 (6) 車両の安全運転管理に関する事 (7) その他機械器具に関する事 (8) 気象の測定及び気象情報に関する事 (9) 庁舎内外の通信機器の整備保全に関する事 (10) 気象及び通信統計に関する事 (11) その他、通信指令に関する事

1 面積・人口・世帯数

(令和5年4月1日現在)

面積	人口	世帯数
193.65 km ²	26,442 人	11,514 世帯

2 市予算と消防予算 (令和5年度当初)

(単位：千円)

市予算	消防費	比率
12,230,000	844,148	6.9 %

3 人口及び1世帯当りの消防費 (令和5年度当初)

消防費 (千円)	一世帯当り (円)	一人当り (円)
844,148	73,315	31,924

4 消防職員及び消防団員1人当りの人口・世帯

(令和5年4月1日現在)

消防職員 (61 人)		消防団員 (292 人)	
人口	世帯数	人口	世帯数
433.4 人	188.7 世帯	90.5 人	39.4 世帯

5 消防庁舎の現況

署所別	住 所	建 物	構 造	面 積
消防本部 高萩消防署	高萩市東本町 3-11	庁 舎	鉄筋コンクリート造 2階建	1,261.23 m ²
		訓 練 塔	鉄骨造2棟 高さ17m及び7m	144.00 m ²
		高圧ガス充填所	鉄筋コンクリート造	10.25 m ²
		車 庫	鉄筋スレート造	66.80 m ²

6 消防現勢

(令和5年4月1日現在)

職員数	本部・署	消防ポンプ機械等の種別	排気量別	台 数
61人	1本部 1署	水 槽 付 ポ ン プ 自 動 車	5,120cc	1
		水 槽 付 ポ ン プ 自 動 車	4,000cc	1
		水 槽 付 ポ ン プ 自 動 車	7,960cc	1
		屈折はしご付消防ポンプ自動車	6,400cc	1
		救 助 工 作 車	8,200cc	1
		高 規 格 救 急 車	2,693cc	1
		高 規 格 救 急 車	2,693cc	1
		高 規 格 救 急 車	3,370cc	1
		指 令 車	2,970cc	1
		予 防 査 察 車	2,660cc	1
		連 絡 車 1 号	1,290cc	1
		連 絡 車 2 号	990cc	1
		連 絡 車 3 号	2,690cc	1
		消 防 連 絡 車	1,990cc	1
マ イ ク ロ バ ス	4,160cc	1		

7 消防職員関係

(1) 職員の配置状況

(令和5年4月1日現在)

階 級 本部・課・署		消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	そ の 他	計	
		消防長	1							1
次 長			1						1	
消 防 総 務 課	課長		1						1	
	課長補佐 G.L		1						1	
	係長			1					1	
	係員				1				1	
	指令センター派遣			1					1	
予 防 課	課長		1						1	
	課長補佐 G.L		1						1	
	主任			1					1	
	係員			1					1	
警 防 課	課長		1						1	
	課長補佐 G.L		1						1	
	係長			1					1	
小計		1	7	5	1				14	
高 萩 消 防 署	署 長		1						1	
	甲 部 中 隊	次席 兼中隊長		1						1
		主査 G.L		3						3
		係長 (G.L)			6(1)					6
		主任			3					3
		係員			1	4	1	4		10
	乙 部 中 隊	次席 兼中隊長		1						1
		主査 G.L		3						3
		係長 (G.L)			7(1)					7
		主任			3					3
		係員				3	1	5		9
小計			9	20	7	2	9		47	
合計		1	16	26	7	2	9		61	

※G…グループ、G.L…グループリーダー

(2) 職員の定数及び実数

(令和5年4月1日現在)

階級区分	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	小計	その他の職員	合計
定数	階級別なし								63
実数	1	16	25 (1)	8	3	8	61 (1)		61 (1)

()内は再任用職員

(3) 消防吏員の階級及び年齢調

(令和5年4月1日現在)

年齢階級	20歳以下	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~65	計
消防司令長									1		1
消防司令							9	7			16
消防司令補				2	8	8	7			1	26
消防士長			6	2							8
消防副士長			3								3
消防士	2	5	1								8
計	2	5	10	4	8	8	16	7	1	1	62
構成比(%)	3.2	8.1	16.1	6.5	12.9	12.9	25.8	11.3	1.6	1.6	100

*再任用職員を含む

(4) 消防吏員の勤続年数調

(令和5年4月1日現在)

計	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
62	5	11	5	10	5	11	15

*再任用職員を含む

(5) 職員技能資格取得調

(令和6年3月31日現在)

階 級 資 格		消 防	消 防	消 防	消 防	消 防	消防士	計
		司令長	司 令	司令補	士 長	副士長		
運 転 免 許	普通						3	3
	準中			3	6	4	4	17
	中型	1	17	23				41
	大型	1	16	20	3			40
	大特		2	5				7
	けん引		1	2				3
そ の 他 資 格	特殊無線技師	1	15	26	6	4	7	59
	小型船舶操縦士		10	4		1		15
	特殊小型船舶操縦士		4	10				14
	危険物取扱者甲種			2				2
	危険物取扱者乙種第1類		1	2	1			4
	危険物取扱者乙種第2類		1	2				3
	危険物取扱者乙種第3類		1	4	1			6
	危険物取扱者乙種第4類		3	19	6	4	7	39
	危険物取扱者乙種第5類		1	2				3
	危険物取扱者乙種第6類		1	2				3
	衛生管理者		1	2	1		1	5
	潜水士		6	9	3	1	2	21
	小型クレーン		12	19	4	0	3	38
	玉掛け		12	25	4		2	43
	救急救命士	1	4	12	1	2		20
	BLS インストラクター	1	2	1				4
	JPTEC インストラクター		1	4	1			6
	ACLS インストラクター							
	MCLS インストラクター			2				2
	PEMEC インストラクター			2		1		3
	ITLS インストラクター			1				1
	CSR インストラクター			1				1
	特定科学物質等		6	9	1	2		18
	予防技術資格者（査察）		2	5	3	0	1	11
	予防技術資格者（設備）		2	3				5
	予防技術資格者（危険物）			1				1
消防設備士甲種4種			1				1	

(6) 職員教育実施状況調 (令和5年度)

階 級 科 目	消 防	消 防	消 防	消 防	消 防	消防士	計
	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長		
消防大学校							
救急救命士研修				1			1
指導的立場の救急救命士研修			1				1
初任教育 初任科							
幹部教育 初級幹部科							
幹部教育 中級幹部科							
幹部教育 上級幹部科							
専科教育 特殊災害科			1				1
専科教育 火災調査科			1				1
専科教育 予防査察科				1			1
専科教育 危険物科							
専科教育 救助科					1		1
専科教育 警防科			1				1
専科教育 救急科						1	1
特定化学物質作業技能取得							
専科教育 水難救助科						1	1
特別教育 操法指導者研修会			2				2
消防緊急車運転技能者研修				2			2
玉掛技能講習					1		1
小型クレーン運転技能講習				1			1
ドローン講習			2				2
合 計			8	5	2	2	17

8 消防相互応援協定 (令和6年3月31日現在)

管内において拡大災害や、境界地域等に発生した災害、及び大規模かつ広域的に発生した災害による被害を最小限に防止するため、消防組織法(昭和22年法律第226号)第39条第2項の規定に基づき、各関係機関と消防相互協定を締結している。

応援協定締結団体

協定名 区分	茨城県広域 消防相互 応援協定	高萩市・ 日立市 消防相互 応援協定	高萩市・ 北茨城市 消防相互 応援協定	高萩市・ 常陸太田市 応援協定	茨城県高速 自動車道等 における消 防相互応援 協定
協定の 対象 区域	茨城県全域	普通…境界 隣接する 区域 特別…管轄 区域全域	同 左	同 左	常磐自動車道
災害の 種 別	水火災又は 地震等の災 害で必要と するもの	火 災 救 急	同 左	同 左	火 災 救 急
応援の 種 別	相互応援	同 左	同 左	同 左	相互応援
要請の 方 法	茨城県に 報告のち 電話 その他	電話 その他	同 左	同 左	出場消防隊 (電話)
応援隊 の指揮 ・命令	発生市町村 等の長	受援側の現 場 最高指揮者	同 左	同 左	受援側の現 場 最高指揮者
経費の 負 担 区 分	経常的経費 及び事故等 に関する経 費は応援側 その他は受 援側負担	同 左	同 左	同 左	経常的経費 及び事故等 に関する経 費は応援側 その他は受 援側負担
協定の 締結日	平成元年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成19年 12月27日 締結
協定の 方 法	文 書	同 左	同 左	同 左	同 左

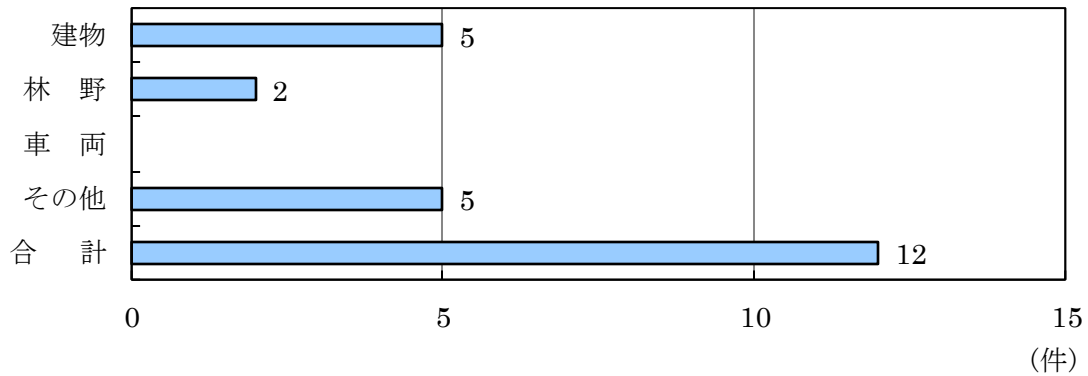
予 防

1 火災発生状況

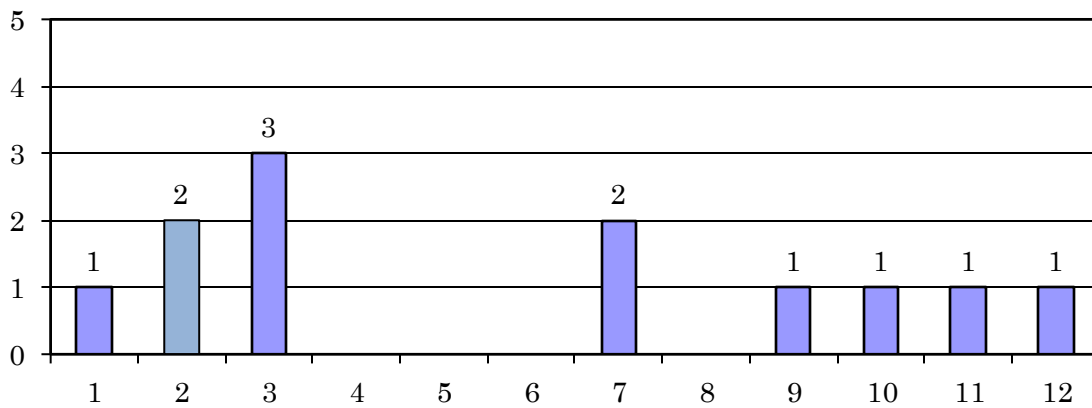
令和5年中に発生した火災は昨年と同数の12件となりました。

内訳は建物火災5件、林野火災2件、その他火災5件が発生したことになります。

(1) 火災件数



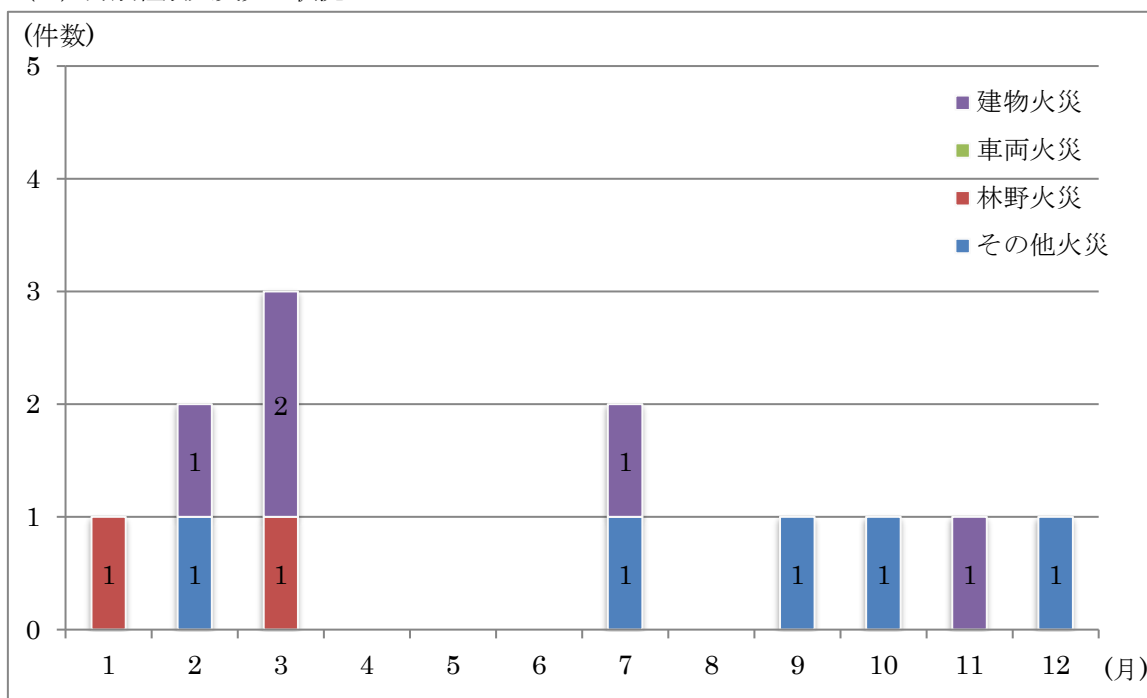
(2) 月別火災発生状況



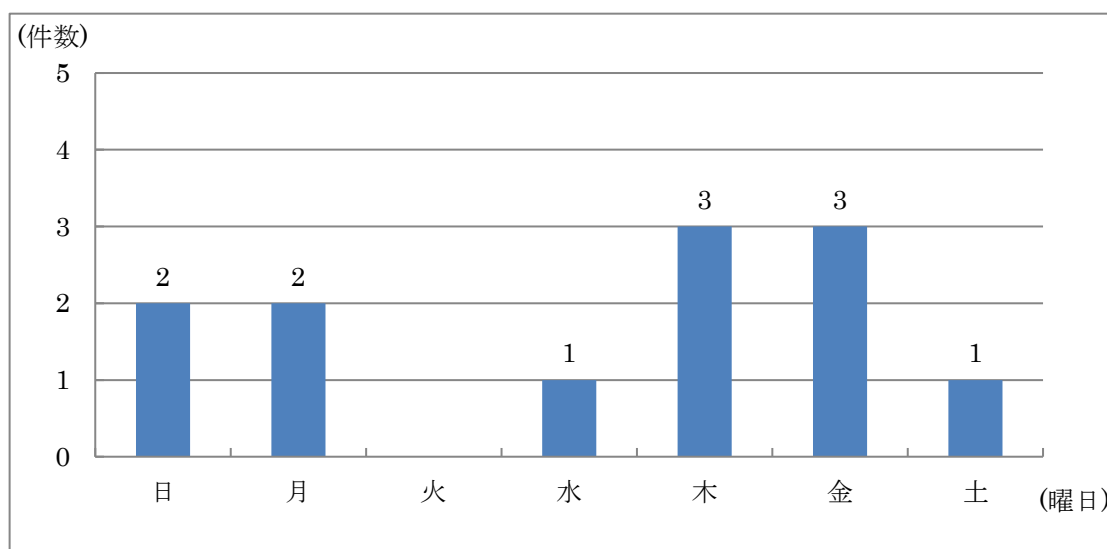
(3) 月別焼損状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
建物焼損床面積 (㎡)		12	62								290		364

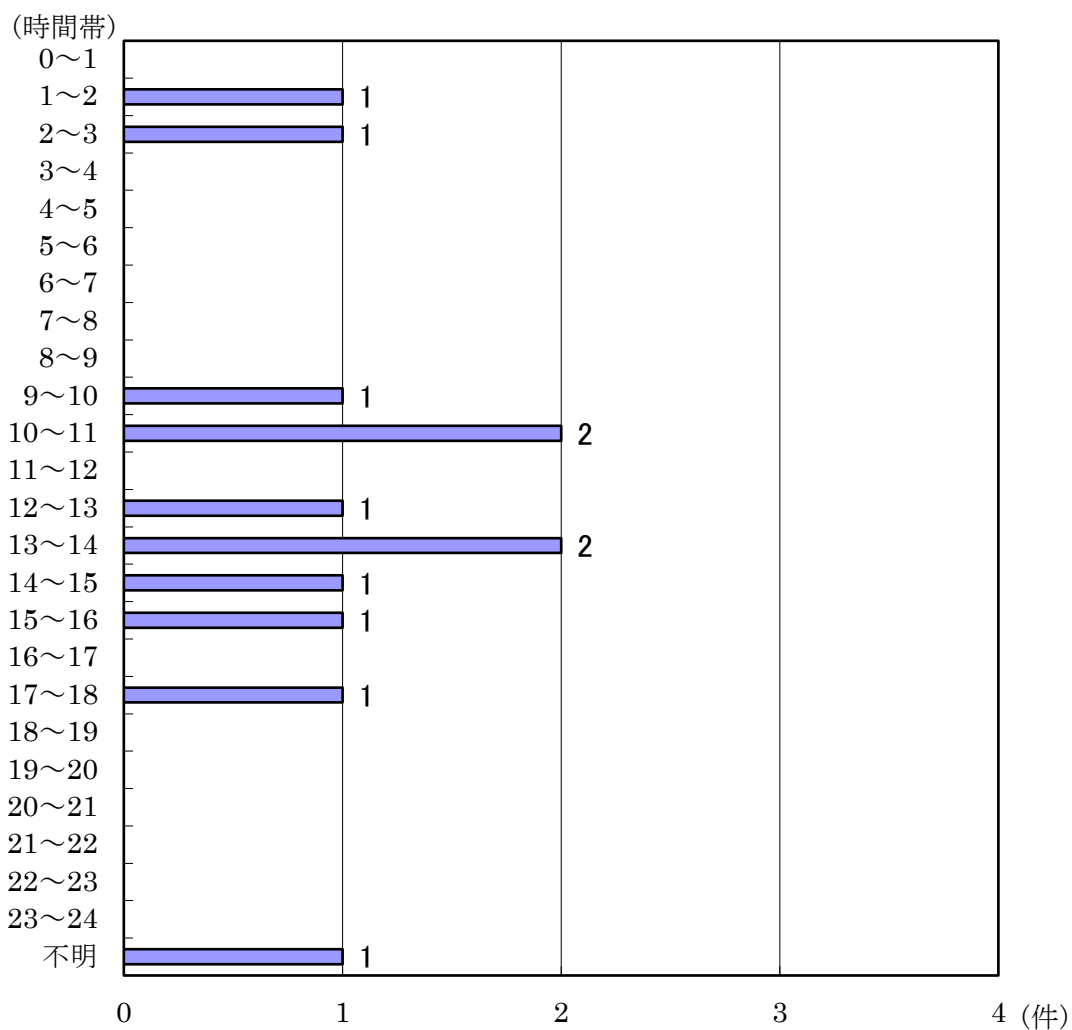
(4) 月別種別火災発生状況



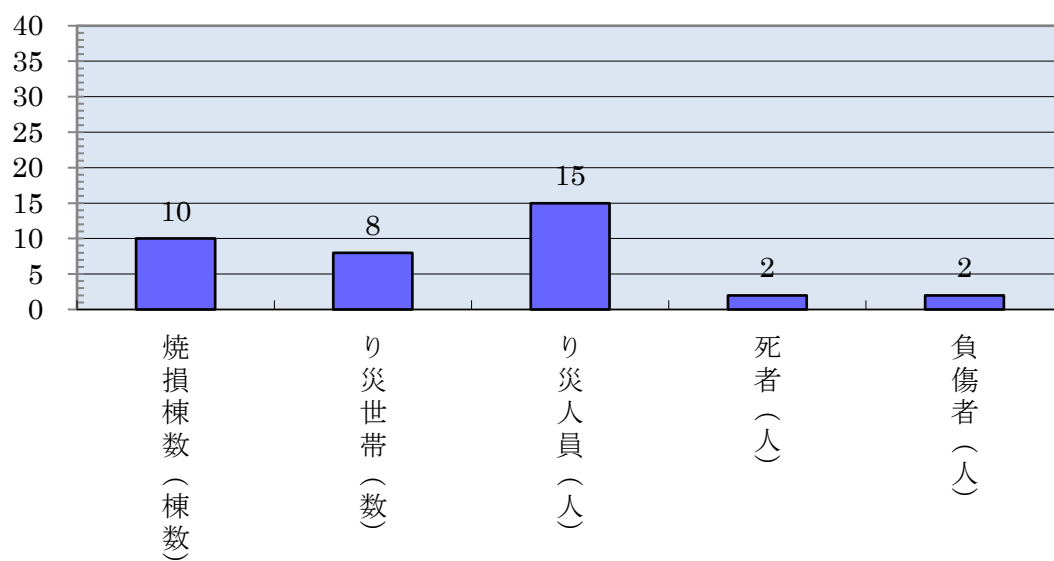
(5) 曜日別火災発生状況



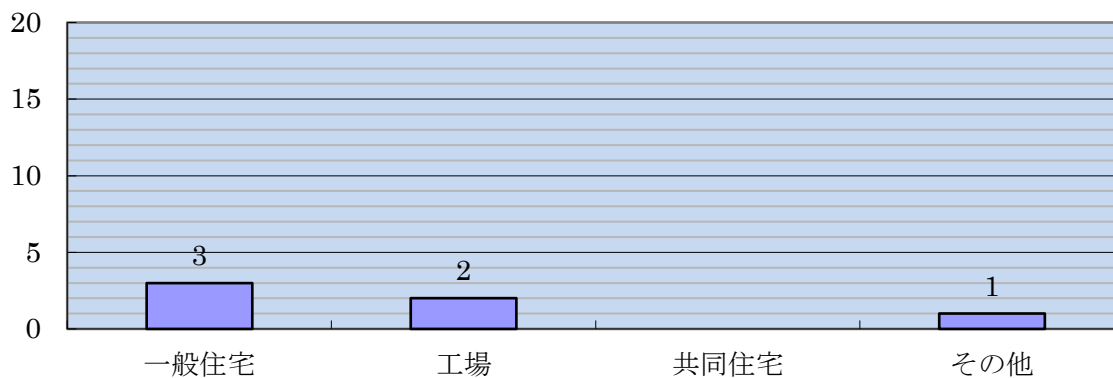
(6) 時間帯別火災発生状況



(7) 焼損棟数・り災状況等



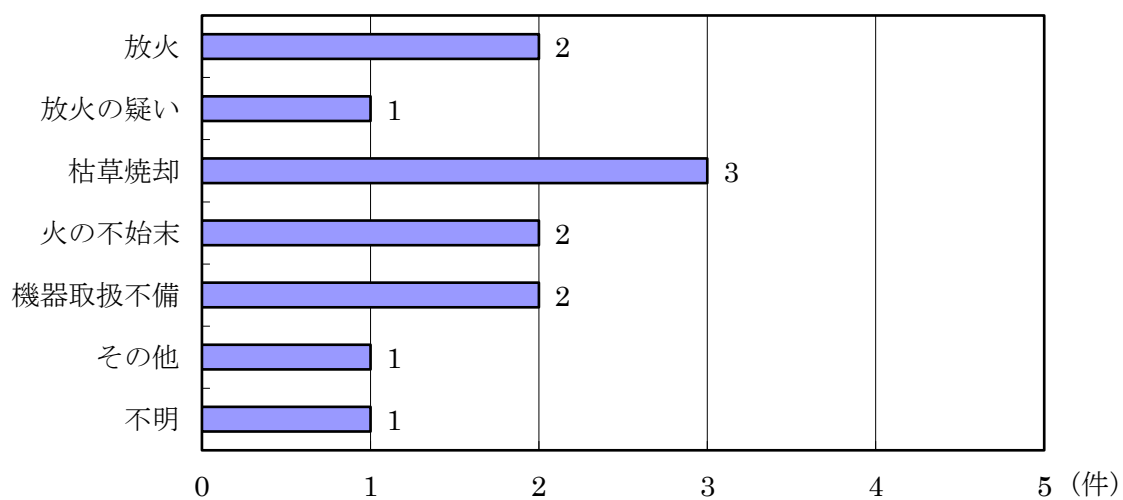
(8) 建物用途別被害状況



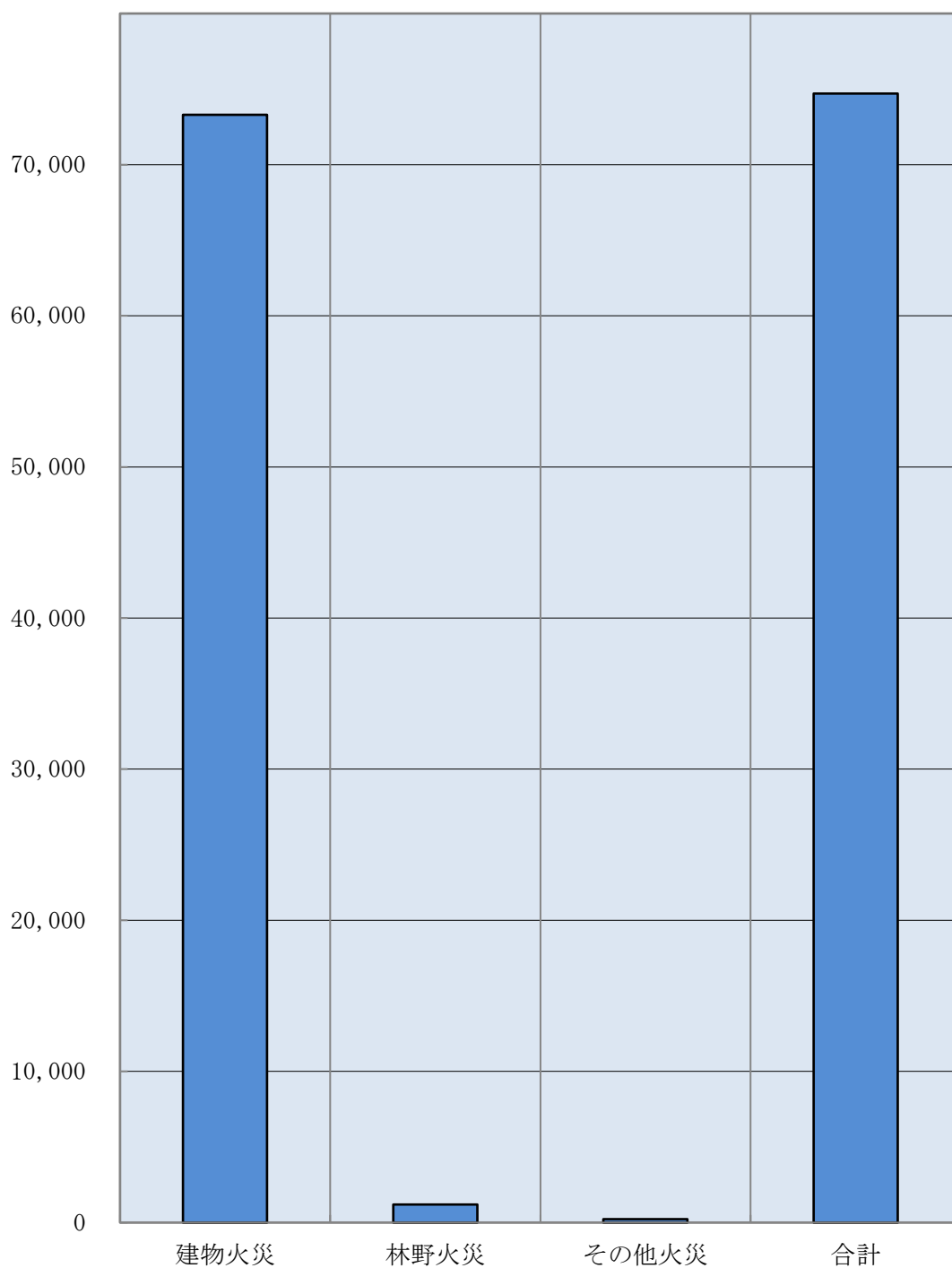
(9) 建物用途別損害状況

	一般住宅	工場	共同住宅	その他	合計
損害額 (千円)	813	72,413		70	73,296.0
焼損床面積 (㎡)	2.53	349.63		12.04	364.2
焼損表面積 (㎡)	1.65				1.65

(10) 主な火災の原因



(11) 損害額



損害額 (千円)

73,296

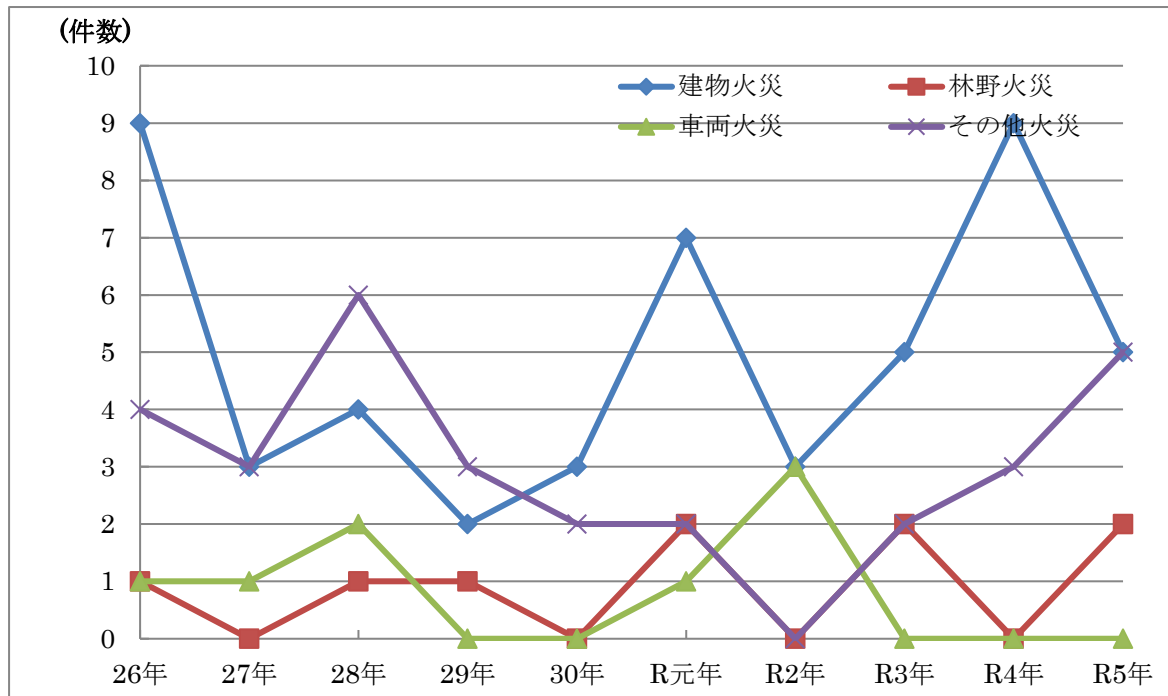
1,191

219

74,706

2 火災の推移 (過去10年間)

(1) 出火件数



(2) 損害額

年別	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
火災件数	15	7	13	6	5	12	6	9	12	12
損害額 (千円)	243,437	6,059	89,227	93	15,408	10,745	4,076	65,662	78,610	74,706
1件当たりの損害額 (千円)	16,229	866	6,864	16	3,081	895	679	7,296	6,550	6,226
1日当たりの損害額 (千円)	667	17	244	0	42	29	11	180	215	205

3 防火対象物現況 (150㎡以上)

(令和6年3月31日現在)

用途別		棟数
(1)	イ 劇場、映画館、演芸場、又は観覧場	2
	ロ 公会堂、集会場	23
(2)	イ キャバレー、カフェ、ナイトクラブ	
	ロ 遊技場、ダンスホール	4
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等	
	ニ カラオケボックス等	
(3)	イ 待合、料理店	2
	ロ 飲食店	20
(4)	百貨店、マーケット、店舗、展示場	69
(5)	イ 旅館、ホテル、宿泊所	17
	ロ 寄宿舎、下宿、共同住宅	227
(6)	イ 病院、診療所、助産所	15
	ロ 老人短期入所施設等	22
	ハ 老人サービスセンター、保育所等	19
	ニ 幼稚園、特別支援学校	5
(7)	小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学校	56
(8)	図書館、博物館、美術館	4
(9)	イ 公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	
(10)	車輛の停車場、船舶又は航空機の発着場	1
(11)	神社、寺院、教会	10
(12)	イ 工場、作業所	236
	ロ 映画スタジオ、テレビスタジオ	
(13)	イ 自動車車庫、駐車場	8
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫	
(14)	倉庫	73
(15)	前各項に該当しない事業所	142
(16)	イ 特定防火対象物の用途が存する複合用途	46
	ロ (イ)以外の複合用途防火対象物	15
(16の2)	地下街	
(16の3)	準地下街	
(17)	重要文化財、史跡等建造物	1
(18)	延長50m以上のアーケード	
(19)	市町村長の指定する山林	
(20)	総務省令で定める舟車	
計	合 計	1,017

4 建築同意月別用途別状況

用途別		月別												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1	イ 劇場等													
	ロ 集会場等													
2	イ キャバレー等													
	ロ 遊技場等													
	ハ 性風俗関連特殊営業店舗等													
	ニ カラオケボックス等													
3	イ 料理店等													
	ロ 飲食店							1						1
4	百貨店等										1		1	2
5	イ 旅館等													
	ロ 共同住宅等													
6	イ 病院等													
	ロ 老人短期入所施設等													
	ハ 老人サービスセンター等													
	ニ 特別支援学校等													
7	学校等													
8	図書館等													
9	イ 蒸気浴場等													
	ロ 一般浴場													
10	車両停車場													
11	神社等													
12	イ 工場等	1											1	2
	ロ スタジオ等													
13	イ 車庫等													
	ロ 特殊格納庫													
14	倉庫			1										1
15	全各項以外								1		1	1		3
16	イ 特定複合用途													
	ロ イ以外の複合用途													
17	重要文化財													
専用住宅							3	2						5
その他														
合計		1		1			3	3	1		2	1	2	14

5 月別建築確認受理件数

区分 月別	新 築		改 築		増 築		移 転		合 計	
	件	m ²	件	m ²	件	m ²	件	m ²	件	m ²
1					1	7,468.72 m ²			1	7,468.72 m ²
2										
3	1	68.33 m ²							1	68.33 m ²
4										
5										
6	4	817.94 m ²							4	817.94 m ²
7	2	1,070.44 m ²							2	1,070.44 m ²
8					1	41.40 m ²			1	41.40 m ²
9										
10	2	1,211.63 m ²							2	1,211.63 m ²
11	1	709.74 m ²							1	709.74 m ²
12	1	1358 m ²			1	274.02 m ²			2	1,632.02 m ²
計	11	5,236.08 m ²			3	7,784.14 m ²			14	13,020.22 m ²

危 險 物

1 危険物関係申請及び届出

(令和5年度内)

危険物製造所等設置(変更)許可件数	14	危険物製造所等完成検査済証交付件数	12
タンク検査済証交付件数	2	危険物保安監督者選任、解任届出数	7

2 危険物規制対象調 (検査済証交付施設)

(令和5年度内)

液化石油ガス貯蔵開始届出件数	7	少量危険物タンク等検査済証交付件数	0
液化石油ガス意見書交付件数	0	指定可燃物届出件数	1
少量危険物貯蔵取扱所届出件数	2		

3 類別・危険物製造所等一覧表

(令和6年3月31日現在)

事業所			51										
製造所等の別	総計	製造所	貯蔵所							取扱所			
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	一般取扱所	
合計	158	9	105	34	53	2	14		2	44	16	28	
単独	第1類	1	1	1									
	第2類	3	3	3									
	第3類	1								1		1	
	第4類	140	2	95	24	53	2	14		2	43	16	27
	第5類	1		1	1								
	第6類												
混在	12	7	5	5									

警

防

1 消防活動状況

(1) 警防活動状況

	事 項 別	回 数	出場人員	
1	火 災 出 場	12	233	
	内 訳	火 掛	7	152
		不 掛	5	81
2	応 援 火 災 出 場	1	14	
	内 訳	管 外	1	14
		管 内	0	0
3	救 急 出 場	1,726	5,285	
4	救 助 出 場	351	1,147	
5	災 害 出 場	1	25	
6	そ の 他 出 場	50	302	
	内 訳	怪 煙	0	0
		誤 報	11	87
		警 戒	0	0
		捜 索・遭 難	1	8
		事 故 処 理	1	4
そ の 他	37	203		
7	蜂 駆 除	192	831	
8	警 防 調 査	59	342	
9	防 火 宣 伝	66	187	
10	特 別 警 戒	30	74	
11	訓 練 (ポンプ操法、規律訓練は含まれない)	365	2,920	
	合 計	2,853	11,360	

(2) 消防訓練等指導調

指 導 内 容	件数	派遣人員	参加人員
1 事業所学校等への消防避難訓練の指導及び火災予防講話派遣	188 件	55 人	8,236 人
2 女性防火クラブ指導	2 件	4 人	29 人
3 見学者に対する広報（職場体験含む）	9 件		204 人
4 その他（操法訓練）	21 件	252 人	86 人

2 警防関係申請及び届出

催物開催届出件数	3	水道断水減水届出件数	0
煙火打上げ仕掛け届出件数	14	水素ガス充てんする気球の設置届出（アドバルーン件数）	0
道路工事届出件数	72	火災とまぎらわしい煙又は火災を発生するおそれのある行為の届出件数	28
露店等の開設届出書	36		

3 消防水利の現況

区 分	容 量	公私別	設置数	合 計
防火水そう	40 m ³ 以上	公設	59(18)	82(18)
		私設	23	
消火栓（水道式）		公設	485	487
		私設	2	

()内は耐震性防火水そう

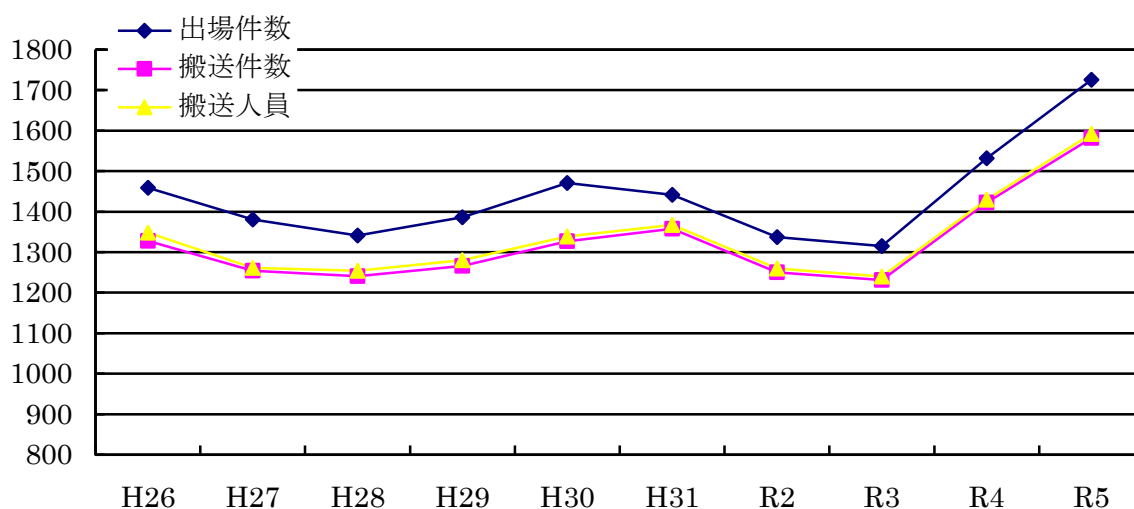
救 急 救 助

1 救急取扱件数

区 分		出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送
救急 出場 種別	火災	3	3	3	
	自然災害	0	0	0	
	水難事故	2	1	1	1
	交通事故	55	53	59	2
	労働災害	13	13	13	
	運動競技	12	12	12	
	一般負傷	219	199	201	20
	加害	8	5	5	3
	自損行為	15	7	7	8
	急病	1,220	1,112	1,114	108
	その他	転院搬送	175	174	174
医師搬送		0	0	0	
資機材搬送		0	0	0	
その他		4	3	3	1
合 計		1,726	1,582	1,592	144

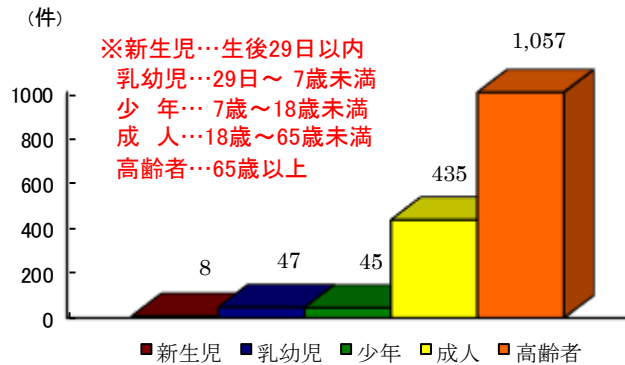
2 救急の推移 (過去10年間)

年	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
出場件数	1,459	1,381	1,341	1,386	1,471	1,442	1,337	1,315	1,532	1,726
搬送件数	1,328	1,254	1,241	1,266	1,327	1,358	1,250	1,235	1,423	1,582
搬送人員	1,348	1,261	1,254	1,280	1,339	1,367	1,260	1,240	1,430	1,592



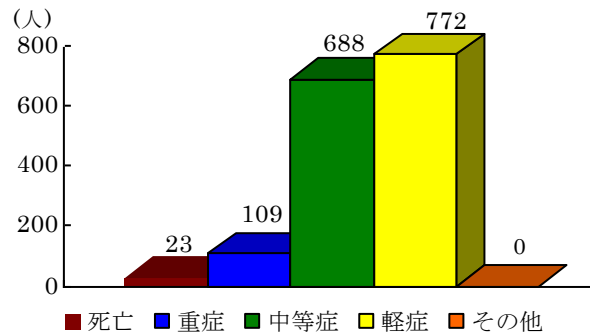
3 年齢区分別搬送人員状況

新生児	8人	0.7%
乳幼児	47人	2.9%
少年	45人	3.4%
成人	435人	25.8%
高齢者	1,057人	67.2%



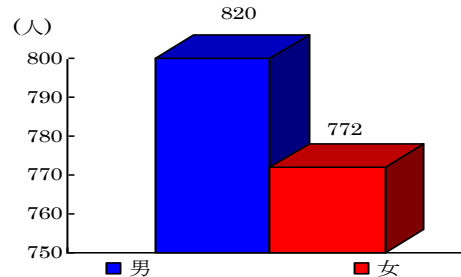
4 傷病程度別搬送人員状況

死亡	23人	2.0%
重症	109人	7.8%
中等症	688人	42.9%
軽症	772人	47.3%
その他	0人	0%



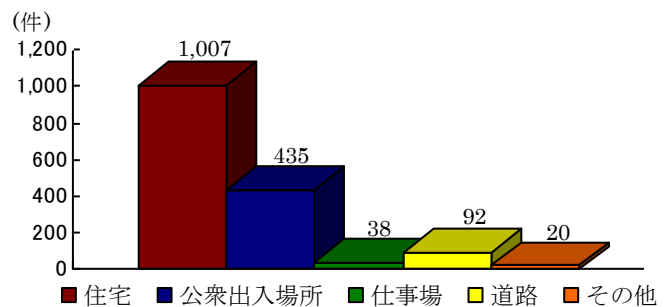
5 男女別搬送人員状況

男	820人	52.1%
女	772人	47.9%



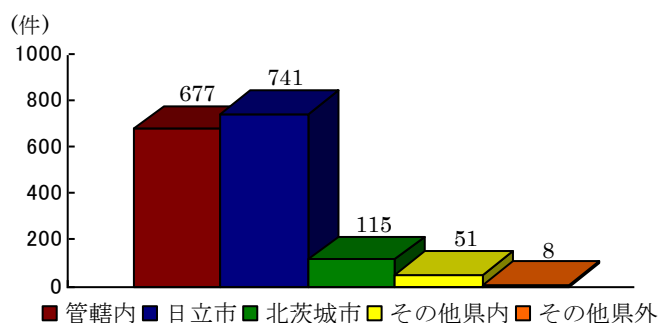
6 発生場所別搬送人員状況

住宅	1,007人	61.2%
公衆出入場所	435人	29.6%
仕事場	38人	1.7%
道路	92人	6.8%
その他	20人	0.7%



7 管轄内・管轄外搬送件数状況

管 轄 内	677 件	40.6%
日 立 市	741 件	46.9%
北 茨 城 市	115 件	8.9%
その他県内	51 件	3.3%
その他県外	8 件	0.3%



8 応急手当講習会実施状況

		実施回数	受講者
普通救命講習会	令和4年まで	789回	16,412人
	令和5年中	35回	544人
その他講習会	令和4年まで	121回	4,318人
	令和5年中	6回	73人

9 救助出場件数状況

	火災	交通事故	水難事故	風水害	機械事故	建物等	ガス酸欠	破裂事故	その他	救急補助	計
出場件数		3	1	1		4			3	352	364
活動件数		3	1	1		4			3	255	267
救助人員		4		1		3			3	190	201

機

械

1 消防ポンプ機械の現況

高萩消防署

(令和6年3月31日現在)

消防車両				ポンプ		備考
種別	登録番号	車別・年式	性能	型式	級別	
水槽付ポンプ自動車	水戸800は82	日野2000年	KK-GD1JGDA改 J08C 7,960cc ディーゼルエンジン 定員6名 水1,500ℓ I-B型 消防無線 ホースカー積載 照明装置150W×4 リアビューモニター ドライブレコーダー	日本機械二段ランスタービン	A-1	完全無給油真空ポンプ
水槽付ポンプ自動車	水戸831ゆ119	日野2020年	2KG-GX2ABA A05C 5,120cc ディーゼルエンジン 定員6名 水1,500ℓ I-B型 CAFS e-モニタ 消防無線 動力付ホースカー積載 ドライブレコーダー LED サーチライト バックアイカメラ	モリタ一段ポリュートポンプ	A-2	エゼクター式真空形成装置
消防ポンプ自動車	水戸832た119	日野2023年	2KG-XZU685M N04C 4,000cc ディーゼルエンジン 定員5名 水900ℓ CD-1型 消防無線 ホースカー積載 LED サーチライト ドライブレコーダー バックアイカメラ	日本機械二段ランスタービン	A-1	完全無給油真空ポンプ
屈折はしご付消防ポンプ自動車	水戸831ふ119	日野2018年	LDG-FE7JKAA改 J07E 6,400cc ディーゼルエンジン 定員6名 Σ型20m級 消防無線 ドライブレコーダー バックビューモニター DC-AC 正弦波インバーター	日本機械二段ランスタービン	A-2	完全無給油真空ポンプ
救助工作車	水戸832て119	日野2024年	2KG-GX2ABA A05C 5,120cc ディーゼルエンジン 定員6名 II型 消防無線 ウインチ・クレーン装置 超高压消火装置 発電機 照明装置240W×2 アラウンドビューモニター ドライブレコーダー			
高規格救急車	水戸832す119	日産2021年	CBF-CS8E26 QR25 2,500cc ガソリンエンジン パートタイム4WD AT 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 SDナビゲーションシステム連動ドライブレコーダー			
高規格救急車	水戸831ね119	トヨタ2017年	CBF-TRH226S 2TR 2,693cc ガソリンエンジン フルタイム4WD AT 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 SDナビゲーションシステム&バックガイド モニター ドライブレコーダー			
高規格救急車	水戸800す6810	トヨタ2009年	CBF-TRH226S 2TR 2,693cc ガソリンエンジン フルタイム4WD AT 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 DVDナビゲーションシステム&バックガイド モニター ドライブレコーダー			(社)日本損害保険協会寄贈
指令車	水戸800す7883	三菱2011年	DBA-V93W 6G72 2,970cc ガソリンエンジン フルタイム4WD AT 定員7名 消防無線 市防災無線 広報装置 ドライブレコーダー			日本消防協会寄贈
予防査察車	水戸800せ5100	日産2019年	CBF-CS4E26 QR25 2,480cc ガソリンエンジン AT 定員9名 消防無線 広報装置 バックモニター ドライブレコーダー			
連絡車1号	水戸400て5535	トヨタ2011年	DBE-NCP50V 2NZ 1,290cc ガソリンエンジン AT 定員5名 ドライブレコーダー			
連絡車2号	水戸533さ119	トヨタ2012年	DBA-KGC30 1KR 990cc ガソリンエンジン AT 定員5名 ドライブレコーダー			トヨタ自動車株式会社寄贈
連絡車3号	水戸300ま3957	トヨタ2005年	CBA-TRH219W 2TR 2,690cc ガソリンエンジン AT 定員10名 ドライブレコーダー			
マイクロバス	水戸200さ262	日産2001年	KK-BVW41 TD42 4,160cc ディーゼルエンジン AT 定員26名 ドライブレコーダー			日本ケミコン(株)寄贈
消防連絡車	水戸501ゆ6396	日産2012年	DAA-HC26 MR20-SM23 1,990cc ガソリンエンジンAT 定員8名 ドライブレコーダー			株式会社 飯塚電機工業 寄贈

2 特殊器具の状況（警防・救急・救助器具）

（令和6年3月31日現在）

		数量
救急器具	人工呼吸器	3
	携行型蘇生器（大人・小児・乳児）	各4
	自動式吸引器	4
	スクープストレッチャー	3
	陰圧式固定器具	3
	喉頭鏡セット	4
	呼気二酸化炭素検知器	5
	自動体外式除細動器（AED）	7
	自動心肺蘇生器	2
	バックボード	5
	陰圧式患者搬送器具（アイソポッド アドバンテージ プラス）	1
警防・救助器具	かぎ付きはしご	4
	三連はしご	4
	ワイヤーはしご	1
	空気式救助マット	1
	救命索発射銃	1
	サーバイバースリング	1
	救助用縛帯	2
	スケットストレッチャー（フル）	1
	スケットストレッチャー（ハーフ）	1
	平担架	1
	ワイヤーバスケットストレッチャー（タイタン）	1
重量物排除用器具	ポートパワー	1
	マット型空気ジャッキ式	1
	大型油圧スプレッター	1
	テレスコピックラム	1
	オグラクラッチコンビツール	1
	可搬ウインチ	3
切断機	エンジンカッター	4
	チェーンソー	1
	エッジカッターチェーンソー	3
	空気鋸	1
	油圧切断機（スーパーカッター）	1
	大型油圧切断機（ホルマトロカッター）	1
レシプロソー	1	
破壊用器具	携帯用コンクリート破壊器具（ストライカー）	3
	削岩機	1
	ハンマードリル	1
測定用器具	有毒ガス、酸素濃度、可燃性ガス測定器	2
	一酸化炭素測定器	1
	放射能測定器	1
	音響発光式検電器	2
	熱画像カメラ（サーマルカメラ）	2

呼吸保護用器具	簡易呼吸器	1
	送排風機	4
	空気呼吸器	22
隊員用保護具	耐電衣	2
	耐電ズボン	2
	耐電手袋	19 双
	耐電長靴	3 足
	陽圧式化学防護衣(レベル A 対応)	2
	化学防護衣(レベル B・C 対応)	107
	携帯警報機	17
	放射線線量計(個人用)	5
	一体型小型電動ファン付き呼吸器防護具 (クリーンスペース ヘイロー)	3
検索用器具	簡易画像探査機(プロアイ)	1
水難救助用資機材	潜水器具一式	6
	浮標	1
	救難用ボート	1
	船外機	1
	救命浮環	2
	救助者用救命胴衣 (PFD)	17
	救命胴衣	17
その他の救助器具 (山岳救助用器具含む)	バスケットストレッチャー	1
	ロープ登はん器(ユマール)	4
	降下器(エイト環)	2
	MPD	2
	ガラスカッター	6
	セーフティーエアバック	1
	ロープガイド	2
	救助ロープ保護板・保護カバー	7
	ベルトスリング	10
	スタティックロープ(100m)	14
その他の器具	ガス滅菌器	1
	高圧コンプレッサー	1
	高発泡装置	2
	耐熱服	5

通

信

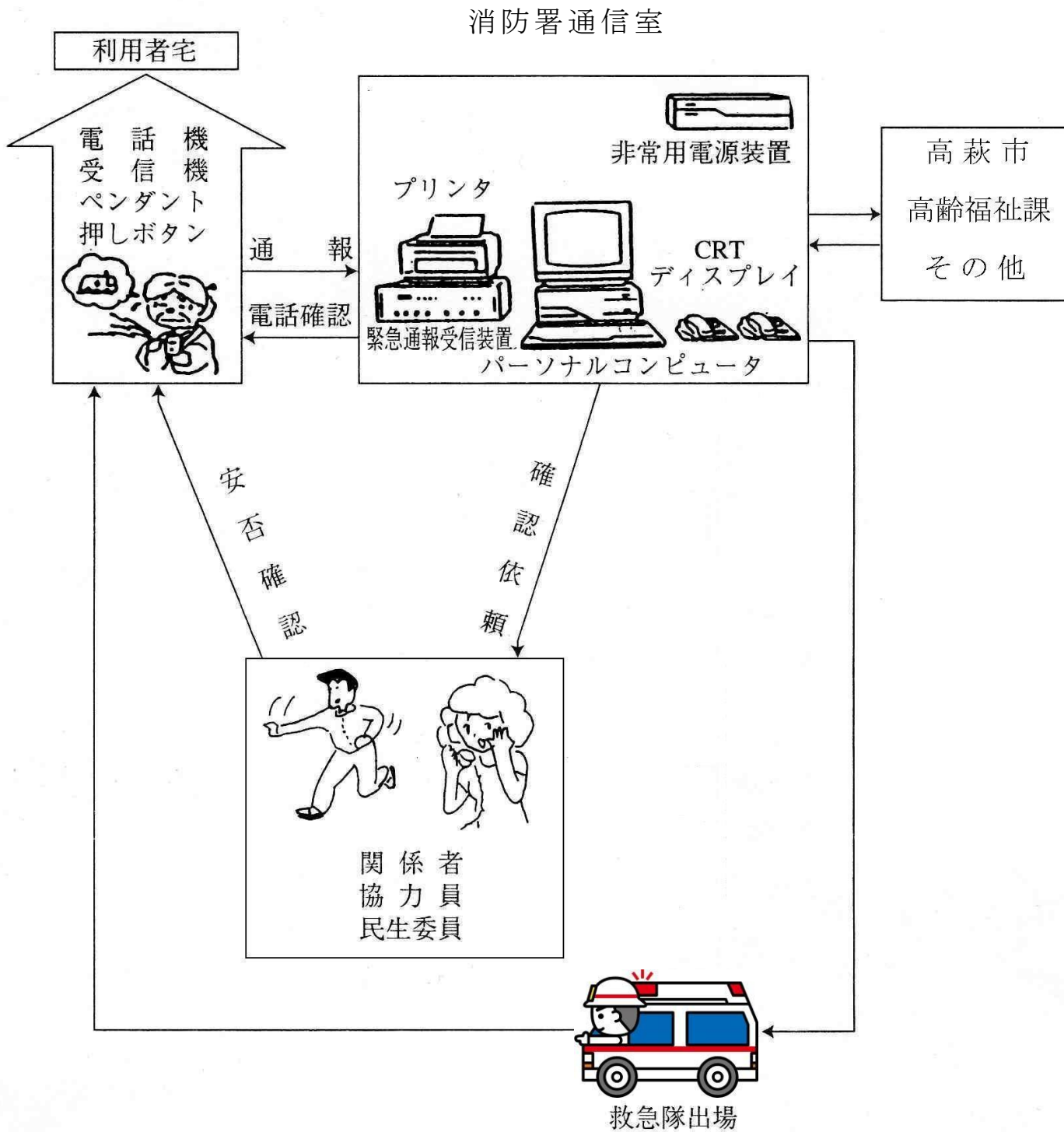
無線通信施設

(令和6年3月31日現在)

配置場所	種類	デジタル方式※	アナログ方式		デジタル簡易無線
			防災相互波	400MHz帯 (署活系)	
消防本部	卓上型	1			
	車載型	10	10		4
	携帯型	15		31	
消防団	卓上型				1
	車載型				21
	携帯型				30

※1チャンネル・・・活動波（消防） 2チャンネル・・・活動波（救急）
 3・4・5チャンネル・・・統制波 6チャンネル・・・主運用5波

緊急通報システム系統図



氣

象

1 月別気温・湿度・風向・風速調

(令和5年)

種別 月別	気温 (°C)			湿度 (%)			風速 (m/s)			
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最大瞬間		平均	
							風向	風速	風向	風速
1	16.7	-4.8	4.5	97.7	23.8	60.7	北西	20.2	北北西	2.5
2	18.2	-5.0	5.5	98.3	18.6	60.0	北北西	22.5	北北西	2.8
3	21.9	-0.2	10.9	99.9	22.5	74.6	北	18.0	北北西	2.6
4	24.0	2.5	14.0	99.9	17.2	71.9	南南西	22.6	北北西	3.2
5	30.1	6.7	16.9	99.4	25.8	79.0	北北西	18.0	南	2.7
6	30.0	11.8	21.1	99.7	30.2	89.4	南西	15.0	北北西	2.1
7	32.6	20.7	25.8	99.9	58.0	91.0	西北西	16.3	南	2.2
8	34.8	22.8	27.4	99.9	56.3	94.4	南	12.5	南	2.4
9	32.0	16.4	25.2	99.9	47.7	93.4	東南東	18.6	北北西	2.4
10	26.5	9.4	17.5	99.9	32.4	76.9	西北西	17.4	北北西	2.4
11	25.8	2.0	13.2	99.9	30.0	76.7	南	22.3	北北西	2.5
12	21.1	-1.7	8.1	99.9	23.0	69.6	西北西	15.9	北北西	2.1
年間	26.1	6.8	15.8	99.5	32.1	78.1	西北西	18.5	北北西	2.5

2 月別雨量 (5年間) 調

	年別降水量 (mm)				
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
1月	8.0	142.5	19.5	13.0	24.0
2月	35.5	50.5	86.5	45.5	38.0
3月	95.5	127.0	238.0	93.5	127.5
4月	83.0	196.5	220.5	138.5	137.5
5月	130.5	181.0	104.0	114.0	122.0
6月	210.5	232.0	132.0	104.0	354.0
7月	151.0	252.0	167.5	147.0	57.5
8月	79.0	49.5	371.0	113.0	75.0
9月	146.5	195.5	200.5	258.5	435.5
10月	434.0	127.5	140.5	77.0	103.5
11月	80.5	224.0	84.0	74.0	94.5
12月	38.0	9.0	127.5	48.5	21.5
計	1,492.0	1,587.0	1,891.5	1,226.5	1,595.5

3 月別警報調

(令和5年)

警報種別		月別												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	大雨						1			3				4
2	波浪													
3	大雪													
4	洪水									1				1
5	暴風													
6	暴風雪													
7														
8														
計							1			4				5

4 月別天候調

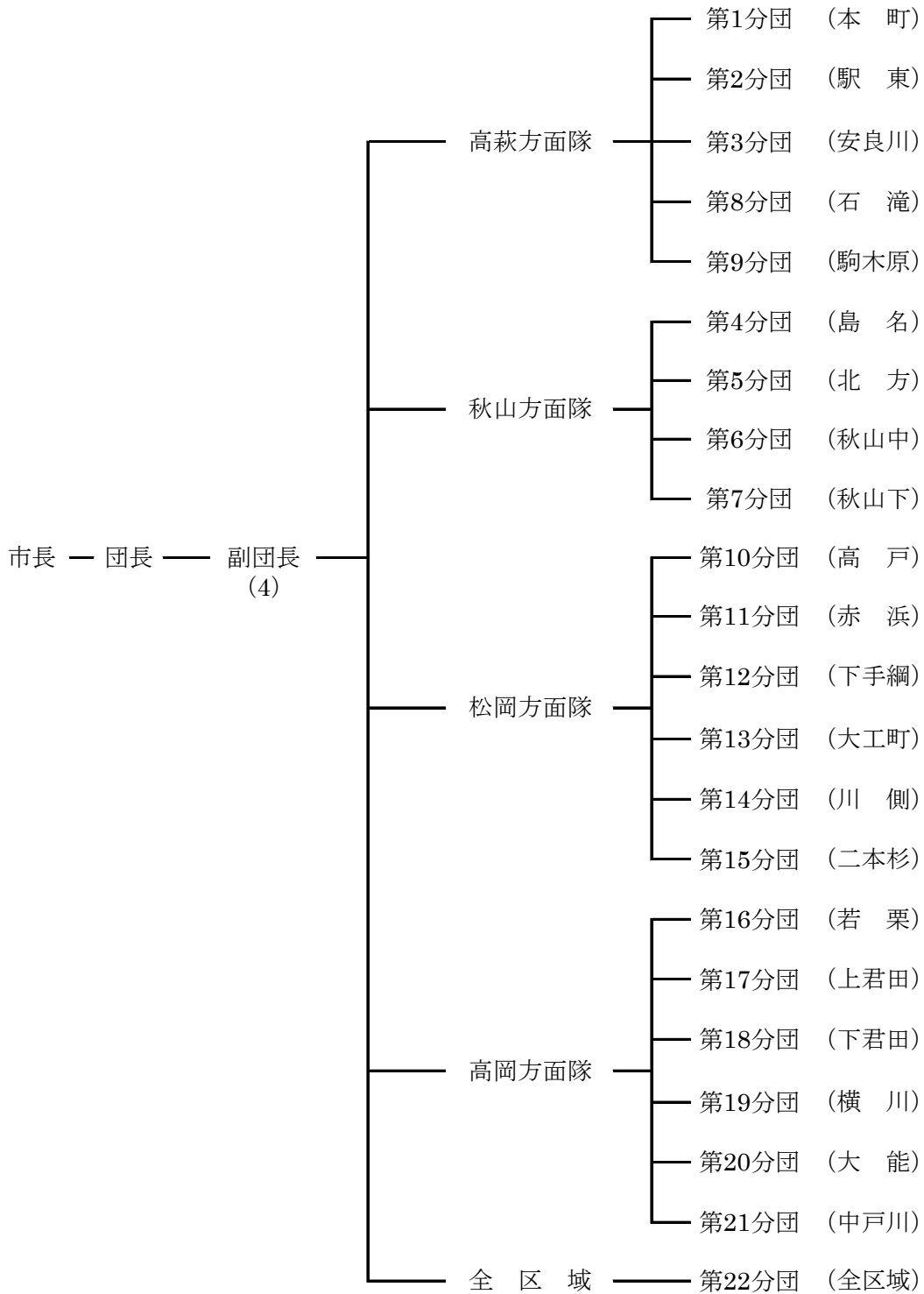
(令和5年)

天候種別		月別												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
晴		17	15	10	10	8	6	11	9	8	13	11	19	137
晴くもり		4	1	3	5	5	3	3	8	1	3	1	1	38
晴くもり雨				1	1	1	3	1	3	3	2	1		16
晴くもり晴			2	2	1	3		2	1	2	3	6		22
くもり			3	1	1	1	3	2		4		2	1	18
くもり晴		5	2	5	2	2	1	2	2	3	4	4	4	36
くもり雨		1	1	1	1		5	1		1		1	1	13
くもり晴くもり				2	3	1	3	3	5	1	1	1	1	21
くもり雨くもり		1	1	2	1	1	2	2	2	4	1	1	2	20
雨			1		1	3	1	1						7
雨くもり				3	3	1	2			2	3	1	2	17
雨のち晴			1	1		1								3
雨くもり雨			1			1		1						3
雨くもり晴		1			1	3	1	2	1	1	1	1		12
くもり雪														
くもり雨雪		2												2
計		30	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365

消 防 団

1 消防団の組織機構図

高萩市消防団（定数323名）



2 消防団現勢

(令和5年4月1日現在)

団名	分団数	車両数
高萩市消防団	22個分団	消防ポンプ自動車 7台 小型動力ポンプ積載車 14台
	団本部	軽可搬ポンプ 2台

3 消防団員の定員数と実員数

(令和5年4月1日現在)

区分	階級							計
	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員		
定員数	1	4	22	22	94	180	323	
実員数	1	4	22	22	88	155	292	

4 消防団員の勤続年数

(令和5年4月1日現在)

5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上	計
32	53	49	39	47	36	36	292

5 消防団員の年齢

(令和5年4月1日現在)

20歳未満	20歳以上 25歳未満	25歳以上 30歳未満	30歳以上 35歳未満	35歳以上 40歳未満	40歳以上 45歳未満	45歳以上 50歳未満	50歳以上 55歳未満	55歳以上	計	平均年齢
1	4	10	15	32	52	48	59	71	13,919	47.6

6 消防団出場回数調

(令和5年12月31日現在)

分団		火災	風水害	訓練等	広報	警防	特別警戒	捜索	その他	計
1	出場回数	2	2	2	1		1			8
	出場人員	19	18	3	7		5			52
2	出場回数		4	3	2		4		9	22
	出場人員		18	19	8		14		18	77
3	出場回数		2	10	2		2		3	19
	出場人員		17	39	9		13		11	89
4	出場回数		2	3	2		3		10	20
	出場人員		15	34	9		8		31	97
5	出場回数		2	2	2		1		8	15
	出場人員		15	33	8		9		27	92
6	出場回数			5	2				4	11
	出場人員			49	35				35	119
7	出場回数		2	6	2		2		12	24
	出場人員		20	36	13		26		31	126
8	出場回数		2	3	2				10	17
	出場人員		13	27	12				20	72
9	出場回数		1	3	1		1		1	7
	出場人員		2	12	8		3		4	29
10	出場回数		2	3	2		1		1	9
	出場人員		17	24	13		11		9	74
11	出場回数	1	2	1	2				12	18
	出場人員	3	5	16	7				24	55
12	出場回数		4	5	2				3	14
	出場人員		30	51	18				6	105
13	出場回数	2	3	3	2		2		12	24
	出場人員	5	19	18	7		12		23	84
14	出場回数	3	3	3	4				3	16
	出場人員	19	19	25	14				6	83
15	出場回数	3	4	1	2				8	18
	出場人員	19	25	9	12				23	88
16	出場回数	1	2	3	2				12	20
	出場人員	3	8	25	16				24	76
17	出場回数	2	3	5			1		13	24
	出場人員	15	24	48			8		36	131
18	出場回数		1	4	1		1		12	19
	出場人員		4	21	4		7		41	77
19	出場回数		1	2					9	12
	出場人員		6	12					25	43
20	出場回数		2	3	1		1		6	13
	出場人員		8	22	5		2		12	49
21	出場回数		1	1	2				6	10
	出場人員		8	7	14				19	48
22	出場回数			8	5				3	16
	出場人員			41	13				16	70
	計	14	45	79	41	0	20	0	157	356
		83	291	571	232	0	118	0	441	1,736

風水害等…災害が発生し出動したもの
 訓練等…出初式、操法大会、規律訓練、防災訓練など
 広報…パレード、火災予防運動など
 警防調査…点検、現場検証など
 特別警戒…風水害、花火、運動競技、鳥追いなど
 その他…本部待機、施設監査など

7 消防団ポンプ機械の現況

高萩市消防団

(令和6年3月31日現在)

所属	消		防			車		両		ボ		購入年月日	備	考
	種別	登録番号	車種・年式	性	能	型式	級別							
第1分団 (本町)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 6156	いすず 2008年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H20. 12	完全無給油真空ポンプ					
第2分団 (駅東)	消防ポンプ自動車	水戸800 さ 5451	三 菱 2001年	KK-FE53EB改 5,240cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 高圧リール付 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	B-1	H13. 3	完全無給油真空ポンプ					
第3分団 (安良川)	消防ポンプ自動車	水戸800 さ 2556	日 野 2000年	KK-XZU301E 4,890cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 高圧リール付 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	B-1	H12. 3	完全無給油真空ポンプ					
第4分団 (島名)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 4338	いすず 2007年	PB-NKR81N 4,770cc 水9000 ドラブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H19. 1	完全無給油真空ポンプ					
第5分団 (北方)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 5516	いすず 2008年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H20. 3	完全無給油真空ポンプ					
第6分団 (秋山中)	小型動力ポンプ積載車	水戸800 さ 2084	日 産 2000年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ V58ASR	B-3	H12. 2	無給脂型真空ポンプ					
第7分団 (秋山下)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 9014	日 産 1999年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ V58ASR	B-3	H11. 3	無給脂型真空ポンプ					
第8分団 (石滝)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 4674	日 産 1997年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H9. 3						
第9分団 (駒木原)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 9675	日 産 1994年	T-SJ2F23改 1,620cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H6. 3						
第10分団 (高戸)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 2683	日 産 1996年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H8. 3						
第11分団 (赤浜)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 869	日 産 1995年	T-SJ2F23改 1,620cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H7. 3						
第12分団 (下手綱)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 6696	いすず 2009年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H21. 9	完全無給油真空ポンプ					
第13分団 (大工町)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 6772	日 産 1998年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-555	B-3	H10. 3	無給脂型真空ポンプ					
第14分団 (川側)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 7510	いすず 2010年	BKG-NMR85N 2,990cc 水9000 ドライブレコーダー	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H22. 9	完全無給油真空ポンプ					
第15分団 (二本杉)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 7819	日 産 1998年	GB-YY101 1,990cc 定員8名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-555	B-2	H10. 9	日本消防協会寄贈 無給脂型真空ポンプ					
第16分団 (若栗)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 7698	日 産 1992年	T-UF22改 1,620cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H4. 2						
第17分団 (上君田)	小型動力ポンプ積載車	水戸830 も 17	トヨタ 2022年	3BF-TRY230 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ VC42AS	B-3	R4. 12						
第18分団 (下君田)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 8690	トヨタ 1993年	T-YH81改 1,810cc 定員8名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ VC42AS	B-3	H30. 10						
第19分団 (横川)	小型動力ポンプ積載車	水戸800 す 7070	日 産 2010年	PDG-SZ5F24 2,950cc 定員6名 ドライブレコーダー	ディーゼルエンジン	ラビット P-556	B-2	H22. 2	総務省消防庁無償貸付 無給脂型真空ポンプ					
第20分団 (大能)	小型動力ポンプ積載車	水戸830 と 20	日 産 2019年	CBF-SQ2F24 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ VC42AS	B-3	R元. 11						
第21分団 (中戸川)	小型動力ポンプ積載車	水戸830 み 21	トヨタ 2023年	BF-TRY230 1,990cc 定員6名 ドライブレコーダー	ガソリンエンジン	トーハツ VC42AS	B-3	R5. 12						

外 郭 团 体

高萩市山林防火普及協会

当市地域の山林面積は、157.02 k m²と広大であり、市面積の実に 81.1%を占め、市産業の主たる一翼を担っております。

近年この山林には、秋より春にかけて、焚火の不始末、タバコの投げ捨て、子供の火遊び、火入れ等により火災が多く発生しております。従来、山林火災は、年間 1~2 件にとどまっておりますが、過去には、昭和 41 年に 13 件発生（焼損面積 391.5 a、損害額 500 万円）、昭和 42 年上半期に 9 件発生（焼損面積 410 a、損害額 300 万円）、また、おもな事例として、昭和 14 年には 500 h a を焼失、昭和 33 年に 30 h a を焼失しています。

現在においても、上述と同等、またはそれ以上の山林火災の発生が懸念されております。そこで、山林火災の発生を防ぐため、高萩市消防本部と茨城森林管理署高萩森林事務所、高萩市森林組合が主体となり、昭和 42 年 8 月 26 日当協会を結成、事業を開始し、現在に至っております。また、昭和 48 年 11 月 20 日、林野庁長官から森林国営保険事業の発展へ寄与したとして表彰されました。

- 1 会 員 正会員（山林所有者、愛林組員、部分林組員）
特別会員（この会の目的及び運営に賛同した者）
名誉会員（警察署、消防本部、森林管理署、農林行政関係者）
- 2 会 費 会員の拠出による
- 3 事業内容 （1）山林の火災予防の啓蒙宣伝、広報
（2）山林の名所、要所への火気注意、山火事防止立て看板の設置
（3）山林パトロール、火災予防警戒
（4）山林防火監視員の配置と活用
（5）功労者の表彰など
（6）高萩市女性防火クラブ連絡協議会、緑の少年団育成協議会への協力
- 4 会 長 鈴木 直登

高萩市防火管理者協議会

管内防火対象物事業所の防火管理者は、各事業所の防火管理について努力されているが、最近の火災現況から小都市の事業所といえども安閑としておれない状況にあることに鑑み、防火管理者が互いに防火管理の技術について研究、情報の交換を行うと共に、消防機関と密接なる連絡を保持することが、災害の未然防止及び損害を減少するのに必要であるとの見地から、昭和42年4月に当協議会を発足し事業を開始した。その後、防火管理者資格取得講習会、火災予防運動等を通じて会の進展に努めている。

- | | |
|--------|---|
| 1 会 員 | 94 事業所（令和5年度） |
| 2 事業内容 | (1) 防火管理についての研究、情報交換
(2) 防火管理者資格取得講習会・研修会を実施
(3) 火災予防運動の協力
(4) 各種警報器具、消火器の取扱い、避難誘導についての訓練
(5) 消防機関との連絡
(6) ポスター等の配布
(7) 住宅用火災警報器設置促進活動の協力
(8) 優良事業所及び優良防火管理者の表彰を行う
(9) 先進地の視察研修を行う
(10) その他この会の運営に必要な事業を行う |
| 3 会 費 | 会員の拠出による |
| 4 会 長 | 大足 光司（日本そば うらじ） |

高萩市危険物安全協会

当会は昭和 34 年 8 月 11 日高萩地方（高萩市及び十王町）危険物安全協会として発足した。その後、消防署の発足した年の昭和 40 年 11 月 16 日、総会を開き県連合会に加入する。平成 16 年 11 月 1 日高萩市・日上市危険物安全協会と改名、その後旧十王町の脱会により、平成 20 年 4 月 1 日に高萩市危険物安全協会と改名し今日に至る。

本協会は会員相互の親睦を図ると共に危険物の取扱管理の向上を図り危険物に基因する災害を防止し、事業の円滑なる発展と社会公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

- | | |
|--------|--|
| 1 会 員 | 47 事業所(令和 5 年度) |
| 2 予 算 | 年間 591,000 円 (会員の拠出による。令和 5 年度予算) |
| | 年間 S1 級 31,000 円 S2 級 24,000 円 |
| | S3 級 17,000 円 |
| | A 級 15,000 円 B 級 13,000 円 |
| | C 級 11,000 円 D 級 7,000 円 |
| 3 事業内容 | (1) 危険物の取扱い管理に関する研究
(2) 関係法令の周知徹底
(3) 危険物に基因する災害予防に関する宣伝及び講習会の開催
(4) 危険物取扱者のための講習会、講演会等の開催
(5) 関係図書の購入、頒布及び斡旋
(6) 会員の弔慰金並びに餞別金に関する事項
(7) その他本協会の目的を達成するための必要なる事項 |
| 4 会 長 | 山口 直樹 (高萩商事株式会社) |

高萩市女性防火クラブ連絡協議会

当市は面積が広く、旧高岡村は市の中心部から13～21kmの山間部にある。

昭和45年3月、地域総出で山林作業中、子供の火遊びにより41棟が全焼、7棟が半焼するという大火が発生し、甚大な被害を受けた。これに鑑み、火災予防と消防技術の練成のため、各地区(山間部)で婦人消防クラブを結成し、万一に備え消防機械の取り扱い訓練などを実施している。またこれらが連絡機関として地区正副会長による高萩市婦人消防クラブ連絡協議会を昭和46年7月に結成、市も同年度から補助金を拠出し育成を図っている。

1 クラブ別会員数

(令和6年3月31日現在)

名 称	設立年月日	会員数
下君田女性防火クラブ	S46.2.6	15名
上君田女性防火クラブ	S46.2.14	34名
大能女性防火クラブ	S46.3.10	6名
中戸川女性防火クラブ	S47.3.1	23名
計		78名
※横川婦人消防クラブ	S46.2.29	H22.3.8 廃部
※若栗婦人消防クラブ	S46.3.1	H22.3.8 廃部

※令和2年度 高萩市女性防火クラブ連絡協議会へ名称変更

- 2 活動内容
- (1) 火災や自然災害の時に地域住民の避難補助や救援を行う
 - (2) 役員会・総会を実施し事業計画や情報交換を行う
 - (3) 各地区において消火器の取扱い、応急手当の訓練を実施
 - (4) 視察研修の実施
 - (5) 幼年少年女性防火大会に参加
 - (6) 春秋の全国火災予防運動啓発の実施
 - (7) 小型可搬ポンプ定期点検及び放水訓練の実施

3 会 長 菊地 千恵子